

12  
二葉 小社511

文部省検定済教科書  
新教育実践研究所著

# 協力する社会

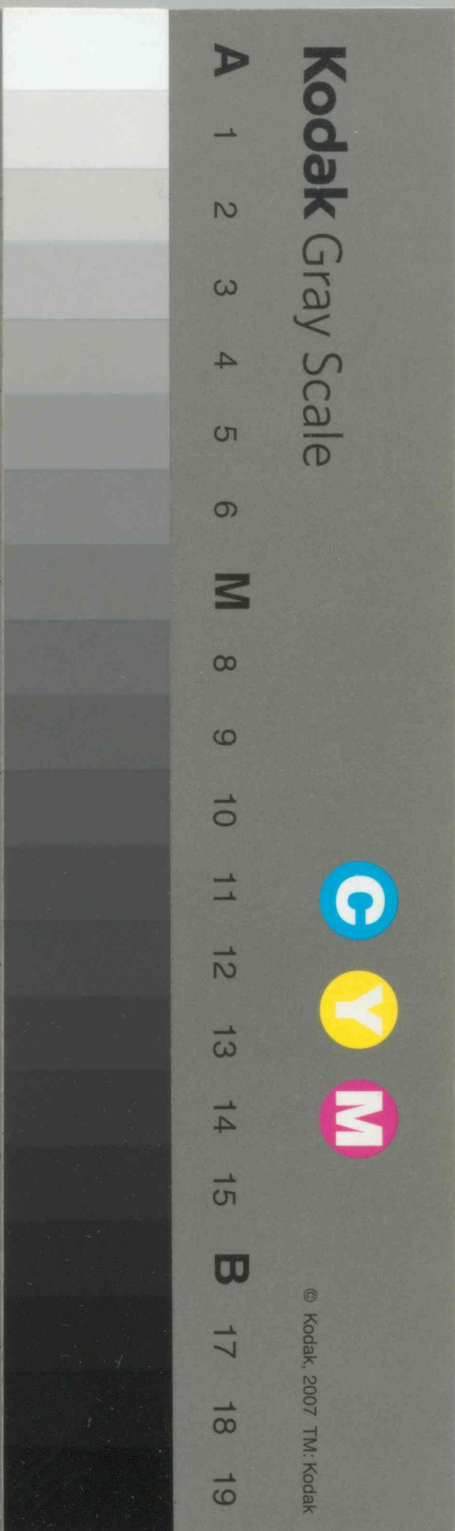
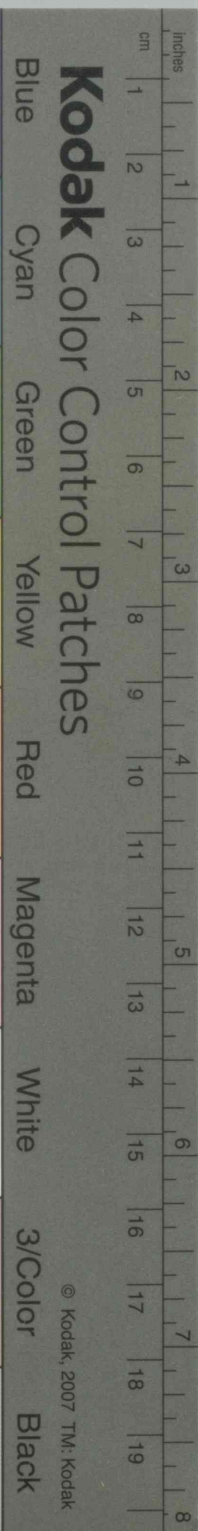
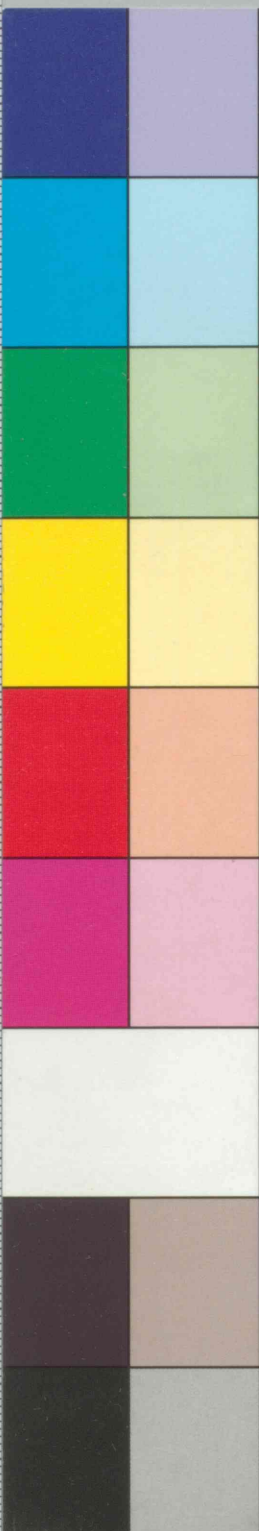
社会科五年下



二葉株式会社

T1A7  
2L0  
12

教科  
34  
013



60015  
教科書文庫  
6  
300  
34-1950  
01304  
49983



教科書文庫  
6  
301  
34-1950  
0130449983

中央図書館



昭和二十五年八月十二日  
文部省検定済  
小学校社会科用

# 協力する社会

第五学年下

広島大学図書  
0130449983

広島大学図書  
0130449983





協力する社会……

- 一 まどガラスのはいった日……………七四
- 二 学級の相談会……………八四
- 三 役所のはたらき……………一〇二
- 四 みんなの学級……………一三七



もくじ

けんこうな生活……

- 一 秋の遠足……………五
- 二 学校にあるけんこうのための施設<sup>しせつ</sup>……………一五
- 三 いろいろな病気と事故……………三六
- 四 けんこうな町のもけい作り……………四五



みなさんへ

暗いということばの反たいを明かるいといいます。しかし、これは電気をたくさんつけましょうという意味ではありません。では何が明かるいのでしょうか。それは心が明かるいのです。けんこうで、身のまわりが清潔で、みんながなかよく、元気にはたらけるようなら、心が明かるいくらしだといえます。

けれども、そういう生活が私たちのまわりに、今あるものではありません。私たちはそれをつくろうとするのです。私たちが明かるい生活をきざこうと決心し、力をあわせて、お互に気をつけあい、心とからだをすこやかにもって、みんなのためにはたらくならば、明かるい生活——協力する社会——をつくりだすことができるでしょう。

この本は、みなさんのそうした決心をたすけるようにつくられていますから、まずみなさんが、明かるい協力する社会について、自分で考えて、自分で行ってから、みなさんの手でこの本を読んでください。

## けんこうな生活

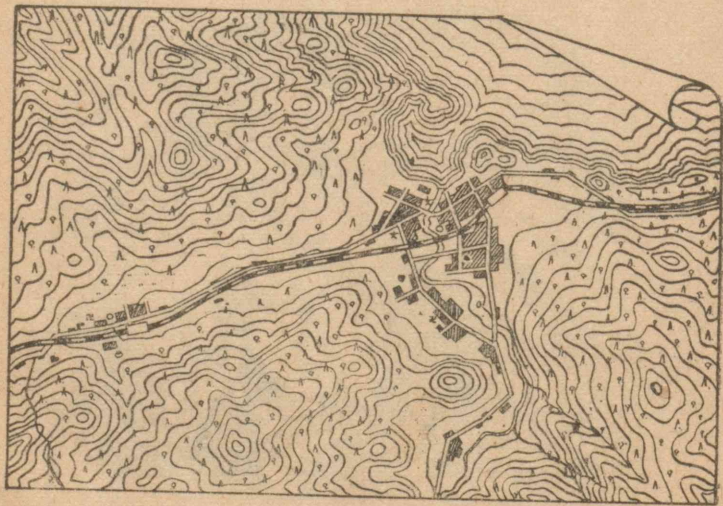
### 一 秋の遠足

#### 1 遠足の計画

「では、これから秋の遠足の計画をたてたいと思います。かっぱつに考えをのべてください。」

正男の司会で、遠足の話しあいのはじめられました。

黒板には、つぎのようなことが書いてありま



した。

- 1 秋の遠足の目的をきめる。
- 2 行先をきめる。
- 3 遠足のプログラムをきめる。
- 4 準備することをきめる。
- 5 かかりをきめる。
- 6 遠足のまとめの方法をきめる。

みんなの話しあいは、第一の「秋の遠足の目的をきめる」ことからはじめられます。

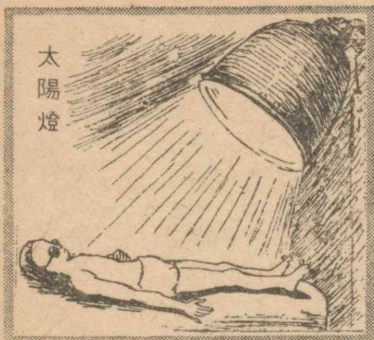
「ぼくは、秋の山の写生をする目的で遠足したいと思います。」

みんなが遠足に行く高見山



各国の結核死亡数  
(人口1万人について) 17年度

日本	20.3人
イギリス	7.0
フランス	13.7
イタリヤ	8.6
ドイツ	6.9
アメリカ	5.4
オランダ	4.8
ベルギー	7.1
デンマーク	4.4



太陽燈

最初に発言したのは、絵のじょうずな三郎でした。

「絵をかいてくるのもよいと思いますが、川のみなもとはどうなっているかしらべてみたいと思います。」

「学校の運動場はせまくて、自由にかけまわれませんか、野原で思いきりかけまわってみたいと思います。」

「目的はいろいろあると思いますが、ぼくたちはふだん町の中のごった空気をすっているのですから、きれいな空気を胸一ばいすってきたいと思います。」

話しあいはかっぱつに続けられました。先生もときどき意見をいわれました。地図、絵はがき、汽車の時間表などの資料も使って、秋の遠足の計画は、きめられていきました。

正男たちは、きまったことをすりものにして、家の人々にくばることにしました。すりものにのせられたのは、つぎのようなことでした。

私たち五年一組の「秋の遠足」は、つぎのような計画で実行したいということにきまりました。

(1) 遠足の目的

私たちは、ふだん町の中で生活していますので、よい空気を胸一ぱいすって、野原や山を歩いてからだを丈夫にし、一日みんなで楽しくすごしたいと思います。またスケッチをしたり山のようにすをしらべたり、植物さいしゅうもしてきたいと思っています。

(2) 行先

私たちの遠足の目的にあったところで、しかも費用のかからない、安全な場所をいろいろと研究した結果、「高見山」が一番よいということにきまりました。

(3) 遠足のプログラム

十月五日午前七時校庭集合

午前七時五十分 大橋駅発

午前八時四十分 高見駅着

(道順)

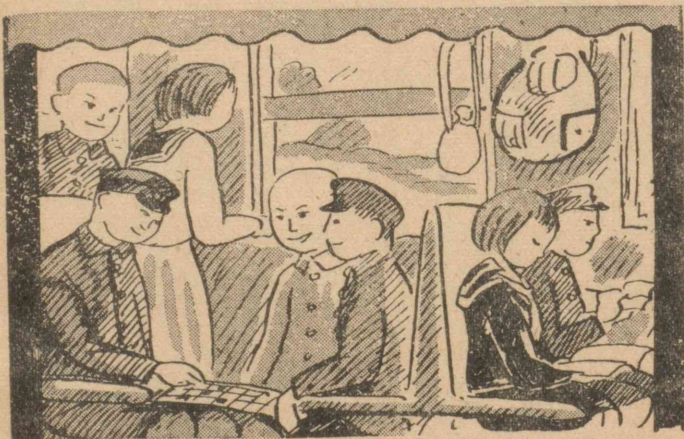
高見駅——月見原（徒歩、二キロメートル、休息）

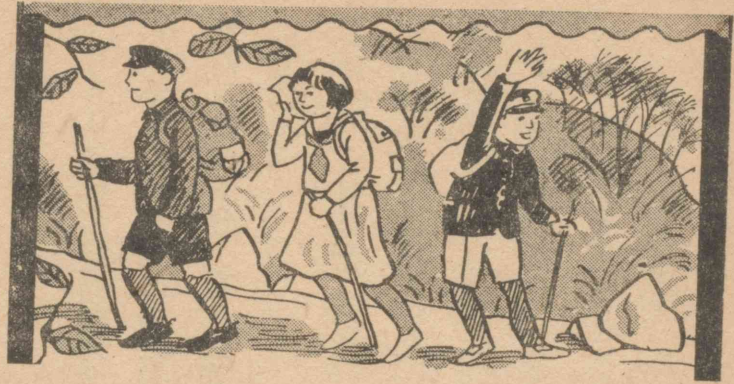
——高見山植物園（徒歩、一・五キロメートル、

植物園見学）——高見山頂上（徒歩、一キロメー

トル、途中植物さいしゅう、谷川のようすや植林のようすの研究、頂上に午前十一時頃着く。頂上で、スケッチ、昼食、あそび、午後二時頂上発）

——高見平（徒歩、一・五キロメートル、休息）





—— 高見駅（徒歩、一キロメートル）

午後三時十五分 高見駅発

午後四時五分 大橋駅着

午後四時十五分 学校で解散

(4) 遠足のための準備

(費用)

電車ちん 三十円（大橋——高見 往復）

(持ち物)

昼食、スケッチ用具、植物さいしゅう用具、研究ノート、鼻紙、ハンケチ、薬（学校）

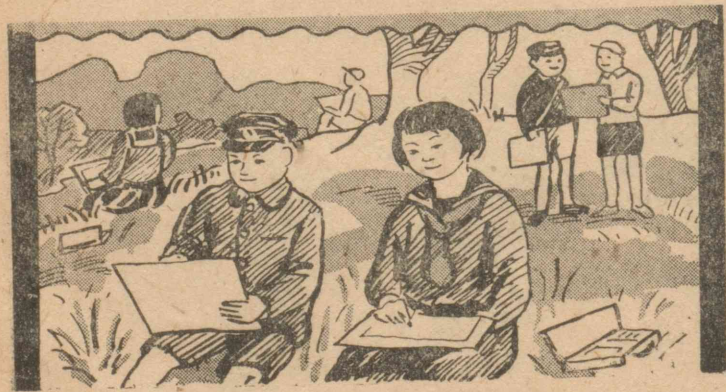
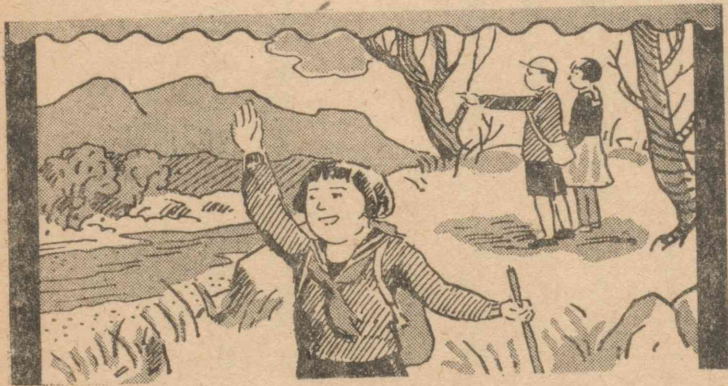
(5) かかり

印刷がかり……一ばん

電車がかり……二はん  
 衛生がかり……三ばん  
 運動がかり……四ばん  
 会計がかり……五はん  
 研究がかり……六ばん

(6) 遠足のまとめの方法  
 秋の遠足のてんらん会と  
 報告会を開いてまとめをす  
 ることにきまりました。

(てんらん会)  
 スケッチと植物さいしゅう  
 うを教室にはり出して、て



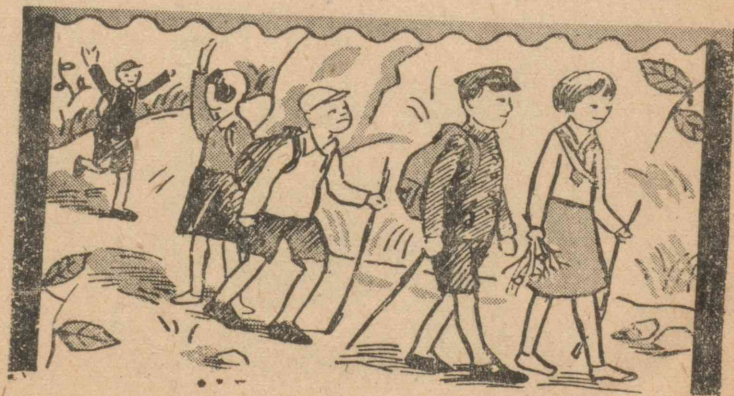
んらん会場を作り、父兄の方に見ていただきたいと思  
います。(十月八日の予定)

(報告会)

てんらん会と同時に開きたいと思います。みんなの研  
究の中からよいのをえらんで、遠足のようにすがわかるよ  
うな報告会を開きます。

遠足の当日は、からりと晴れたよい天気でした。正男  
たちは、元気に遠足にてかけました。そうして、じゅう  
ぶん目的をはたして、楽しい秋の遠足から帰ってきました。  
た。

2 遠足のまとめ



遠足がおわって三日目の午後から、「秋の遠足のとんらん会と報告会」が開かれま  
した。父兄の方もかなり集まって、正男たちの絵を見たり、報告を聞いたりしてくだ  
さいました。

報告会のプログラムはつぎのようなものでした。

一、開会のことば……………中村よし子

二、報告

- 1 高見山植物園のようす……………鈴木 一郎
- 2 高見山のいろいろな植物……………安藤とし子
- 3 川のみなもとのようす……………関口 光男
- 4 高見山の頂上のようす……………大山えみ子
- 5 山の空気……………山田 和男



三、先生の話

四、父兄の方々の話

五、閉会のことば……………三井四郎

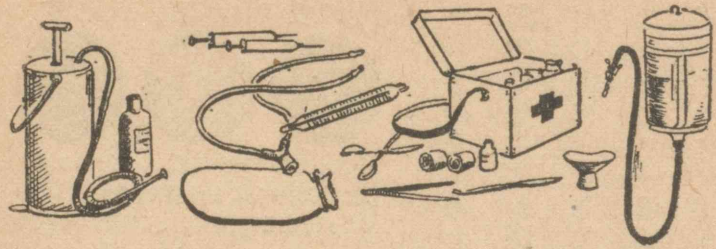
どの報告も、よくまとまったりつばでした。その中でも、和男の「山の空気」の研究報告が一番みんなを感心させました。和男の報告は、町にくらべて山の空気がよくすんでいて、気がせいせいするようであつたこと、そのわけをしらべてみると、山の空気は町の空気のようににごつていないし、ばいきんもないし、そのうえ人間の生活になくはならない「さんそ」を多くふくんでいるからだということでした。

先生も、和男の報告が大へんよい研究であつたことをほめられました。

また父兄の方々の話の時、町の保けん所にとめているのり子のおとうさんが、和男の研究をほめてつぎのような話をしてくださいました。

「きょうは、みなさんのよい研究の報告を聞くことができて、ほんとうにうれしく思いました。その中でも山田和男君の発表にはとくに心をひかれました。町に住んでいる人々にとって、ときおり山の中のきれいな空気をすうことは、大へん大切なことなのです。町でくらす人々のけんこうをまもるためには、いろいろ考えなければならぬ問題があります。町の中だけでなくて、学校でもみなさんの家庭でも考えなければならぬ問題があります。けんこうということが、私たちの生活をどんなに明かるく、楽しくしてくれるかしません。町の保けん所では、この町をけんこうな町にしようと一しようけんめい努力しています。みなさんも、今からけんこうをまもる——つまり保けんということについていろいろ考えてください。それから、保けんのこととて研究したい事がありましたら、ぜひ保けん所にきてください。」

一一 学校にあるけんこうのための施設しせつ



ある。身体けんさで、校医の先生にちよ  
うしんきをあてられたことが五回ある。  
けがをしてマキキュロをぬってもらった  
り、頭やおなかがいなくなつて薬をもら  
つて休んだこともある。  
しかし、研究しようと思つてこのへや  
へはいつてみると、そういう時とはまる  
でちがった感じがする。薬のにおいがす  
る。きちんとせいとんされていてぼくた  
ちの教室とはまるでちがった感じがす  
る。リノリウムがしいてあるので、歩  
いても音がしない。どこか病院にたと

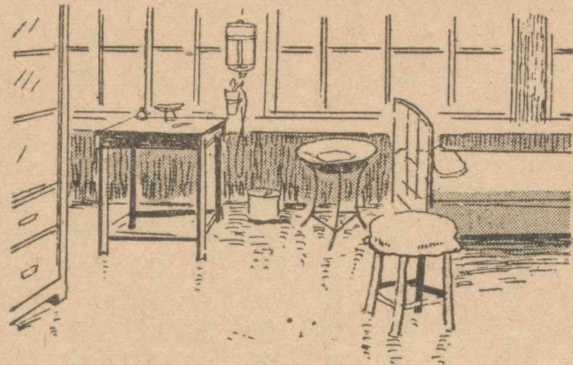
### 児童はどんな病気で死ぬか (満5才~15才まで)

単位10年1万人  
総死亡20人 内訳

(昭和23年度衛生統計年報)による

核	5.2	人
結核	0.7	人
肺炎	1.0	人
脳炎	0.3	人
下痢	3.0	人
心臓病	0.8	人
その他	0.8	人
合計	3.5	人

東京都の場合



報告会のよく日、正男たちは、「町で生活する私たちのけんこうは、どのようなか。」という問題について、話しあいました。また「この町の保けんについてどんな問題があるだろうか。」ということも考えてみました。しかし、話しあっただけではよくわかりませんでした。そこで、この二つの問題について研究してみることになりました。研究のじゆんじよは、まず、学校からはじめ、つぎに、町の保けんについて考えることにしました。

### 1 衛生室

衛生室は、学校のはいり口の右から三番目にあるへやである。しよく員室、宿直室、衛生室という順に並んでいて、そのつぎが一年生の教室である。この学校にはいつてからぼくたちは誰でもなんどかこのへやにはいつたことが



呼吸 18-20 (1分間) 体温 36.5-37.0 脈搏 72-80 (1分間)

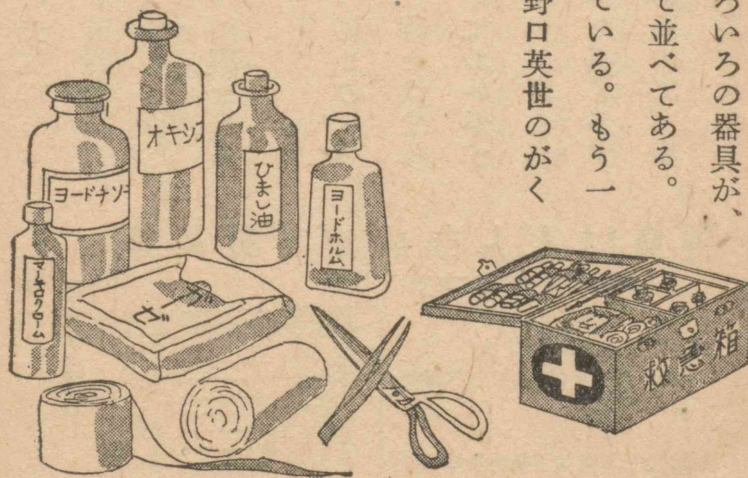
人によって多少ちがいますが健康な時には、だいたいさまっています。病気の時には、この数がくります。

ころがある。ピカピカ光ったいろいろの器具が、ガラス戸だなの中にせいとんして並べてある。いろいろな薬品がずらりと並んでいる。もう一つのガラス戸だなの上のかべに野口英世のくがかけられている。

ここには、ちよつとしたけがや、病気のであてをする用意と、

きゆうのまにあわせるための用意とがしてある。

衛生の先生にお聞きしたら、この四月から十月までの間に、ここであてをしてもらった人のきずのうちで、一番多いのは、なんといってもすりきず、きりきず、うちみなどで、薬もマーキユロが



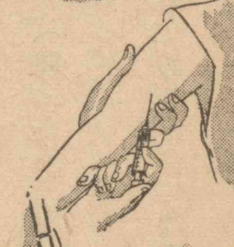
一番多くつかわれるそうである。

「ついこのごろまでは、ヨードチンキをよく使いました。しかし、いたくなくてしかもしきりの力が強いマーキユロが発明されてから、たいていこれを使うようになりまして。」

と、先生はいわれた。私たちはもうなれつこになっているが、マーキユロの発明はすばらしい発明だと思った。

救急箱を見せていただいた。小さいはこの中にきゆうな病気にまにあうようなものが、うまいぐあいにはいつている。どこのうちにも一つずつあるといい。ぼくのうちにもたしか古いのが一つあった。うちへ帰ったら、調べてちゃんとしておこうと思つた。先生は、帰りがけにこうおっしゃつた。

「しかし、衛生室の仕事はげがや病気のであてだけではありません。また、身体けんさや予防注射をします。それから、衛生についていろいろお話をしたり、たんつぼ

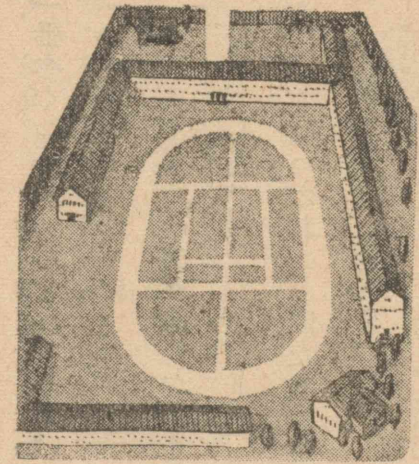


やべんじよのそうじにも気をつけます。こうして、みなさんのからだか病気にかか

らないように、いろいろな仕事をしています。こういふ仕事を予防といひます。衛生室はちよ  
うど町の病院と保けん所を一しよにしたような  
ものですね。」

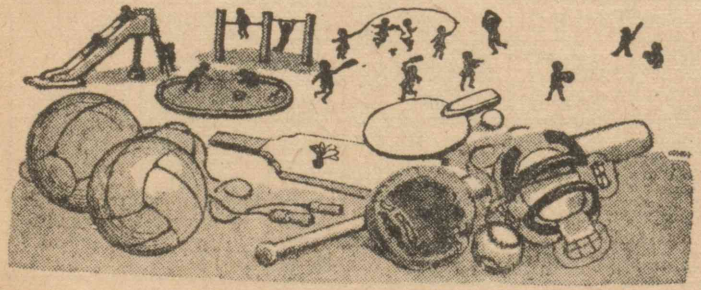
私たちははいねいにお礼をいって帰った。

## 2 運 動 場



運動会が近づいたので、運動場はふだんよりも活気があふ  
れていた。五年からも委員が出て、六年生と一しよにトラッ  
クをはかった。八百メートルリレーを四回まわりとし、百メ  
ートルの徒競走もはからなくても出発点と決勝点が、すぐき  
められるように考えてラインを引いた。

ラインを引きながら、村山君と運動場の広さはどのくらい  
あるのだろうと話した。巻尺を使って、へいの所から校  
舎の内側の線まではかったら、百五十四メートルと五十五セ  
ンチほどあった。校舎の内側のはばは五十メートルと九十七  
センチであったから、ここだけで七十八・八メートルあること  
になる。先生にお聞きしたら、学校沿革誌がっこうえんかくしという古いつづり  
をだしてこられ、



「西側の学校園を入れないで、ちょうどきみたちのほかつた運動場の広さは、二千三百八十坪と書いてあるから、だいたい同じくらいになるわけだ。」

といわれた。教室へ行ってみんなていろいろ計算してみた。けんこうを進めるのに大切な運動場は、広くなければならぬが、また、そこでどんな運動をするかということも大切なことである。私たちは、先生に一年の間にやる運動のプログラムを見せていただいたり、みんなにどんなことをして遊びますかという質問を出して紙に書いて答えてもらったり、また学級文庫の本で調べてみたりした。そして、それを春夏秋冬にわけて、一、二年生にもわかるように絵にかいて、学級で出すかべ新

25年2月現在

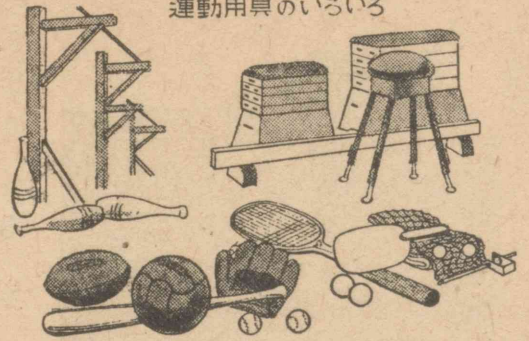
水上	世界最高記録	日本最高記録
100m	55秒4	57秒2
400m	4分33秒3	4分33秒3
1500m	18分19秒0	18分19秒0
200平泳	2分33秒0	2分39秒0
100背泳	1分4秒0	1分7秒2
至100m	1分4秒6	1分11秒0
400m	5分0秒1	5分39秒2
200平泳	2分49秒2	3分0秒9
100背泳	4分27秒6	4分58秒1

陸上	世界最高記録	日本最高記録
100m	10秒2	10秒3
800m	1分46秒6	1分54秒0
走高跳	2m10	2m02
三段跳	16m0	16m0
棒高跳	4m76	4m35
槍投	78m70	68m59

世界と日本記録の対比

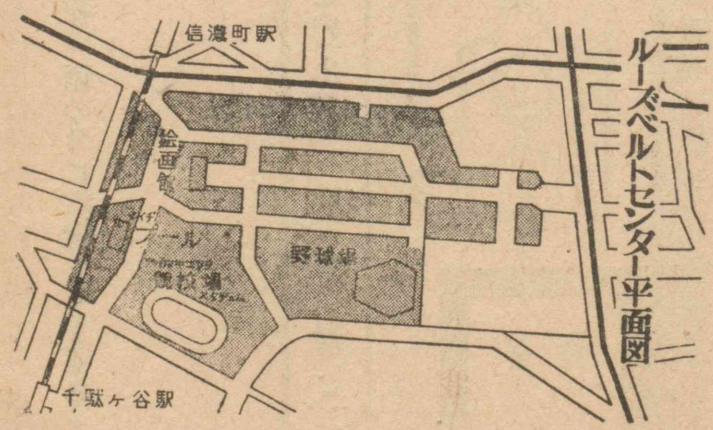
運動用具のいろいろ



聞にのせた。

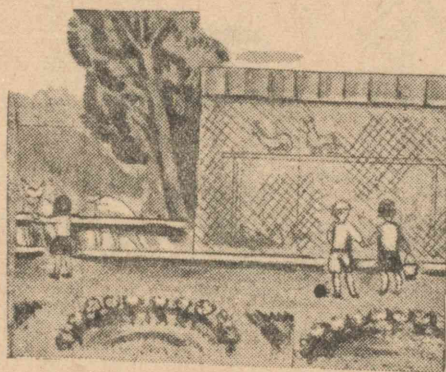
運動の中でこのころ一番さかんなのは野球である。しかしこの広い運動場でもバットでかたいボールを打って、ガラスをわることが多いので、キャッチボール

とゴロベースのほかは、なるべくしないことになっている。思うまま、野球のできる広い運動場は、やはり公園のような所にあるのがいいのであろう。

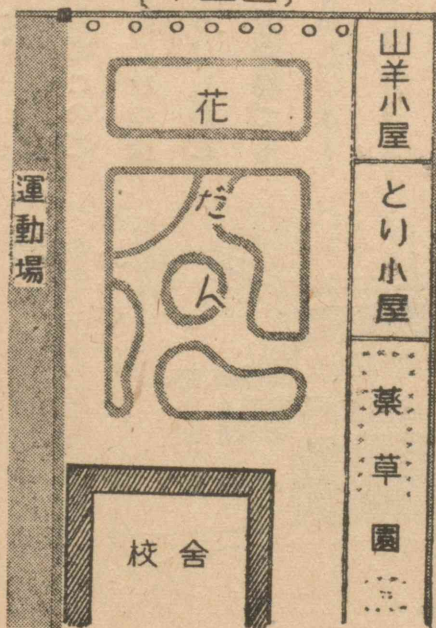


雨の時は講堂が使えるが、せまいからみんなて使うわけにはいかない。本てみたよ  
うな体育館たいいくかんがあればよいと思うが、私たちはとりあえず、雨の日に教室でできるあそ  
び方を考えて、かべ新聞の特別号を出した。

3 学 校 園



[平面図]



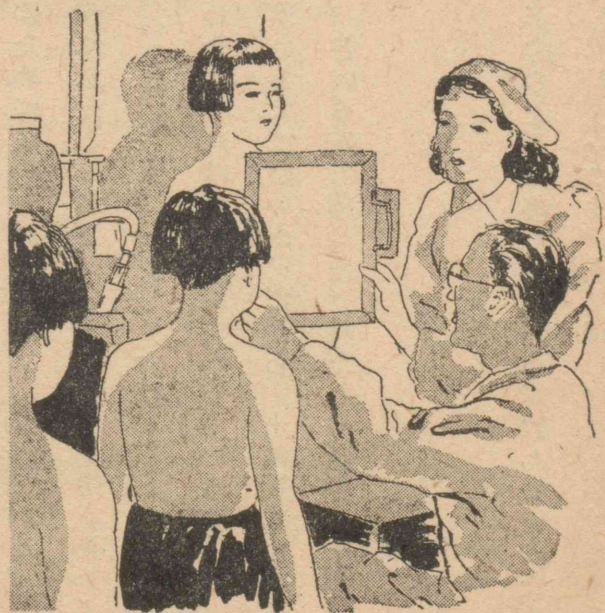
学校園がけんこうのためになされたものかどうか、ということがはじめてみんなの  
問題になった。秋の遠足の報告会するとき、のり子さんのおとうさんのお話で、山は木  
が多いので、空気がきれいで、けんこうのためによいということはわかつてい。し  
かし、学校園はけんこうのためになりそうに思えるけれど、どうもはつきりとわから  
なかった。緑の木は山のように多くはない。しかし、土にしたしむおひやくしょうは、  
町の人よりけんこうだから、学校園のせわをすればけんこうになれるという人もあつ  
た。それによいして町にもけんこうな人がいるではないか。だから、土に親しむから  
けんこうなのかどうかはよくわからない、という人もあつた。私たちの意見はなかな  
かまとまらなかつた。

先生が、

「みなさんの話しあいを中心は、緑の木が山のように多くないから、けんこうのため  
によいかどうかかわからないということ、もう一つは、土に親しむことがけんこう



のためによいかどうかということですね。第一の緑の木の多い少ないということですが、少なくともある方がないよりよいわけです。この町でも緑地帯を作って、人



人のけんこうをまもろうという計画をしています。第二の土に親しむこともけんこうのためによいと考えられます。」とおっしゃって、「どうしてそれがけんこうによいかは、理科の方ともかんけい深いから、菊地先生によく聞いて、みんなて研究してごらんなさい。」といわれた。

運動場の広さの計算をしたとき、ついでに学校園もはかってみたら、十五アールあった。その大部分は花だんである。それが四分してある。両側の二つは理科で使ういろいろな植物が植えてあり、おもに四年生、五年生、六年生が世話をす。東の二つにはなるべくきれいな、世話のしやすい花が植えてあって、一年生、二年生、三年生が世話をしている。西側のへいにそって、校舎の裏側にかけて薬草園と花だんが

薬用植物

けんのしょうこ



おおはこ



サフラン



けし



ある。南側のへいにそつては池がある。

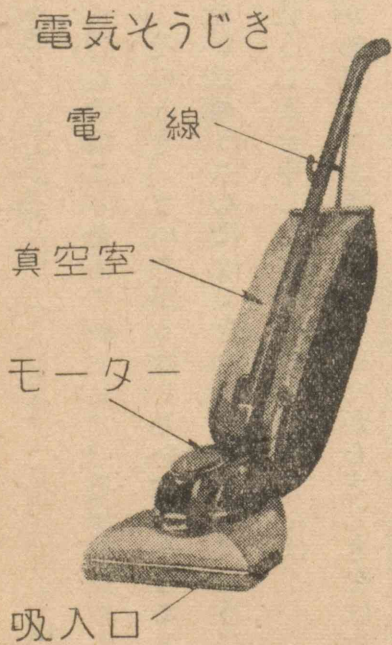
やぎ小屋やにわとり小屋もあつて、このかかりが菊池先生で、理科のことを熱心に研究していらつしやる。学校園は理科についていろいろな研究をするところであるばかりでなく、私たちのけんこうにもよいと思うが、そのわけをはつきり知りたい。そこで、私たちは菊池先生のところへお願いに行つた。

「日本人はたいへん自然を愛する心の深い国民です。外国人の書いた本にも、日本人は、庭もないような小さな家にすむ貧しい人でも、いろいろに工夫して、はちうえの朝顔をそだてたりするような国民だといつてゐる。しかし、また一方では、日本人は、発明や発見をとりいれて

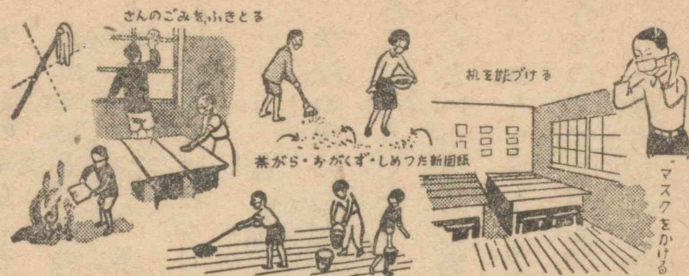
ふだんのくらしをよくするというような、いわゆる科学的なところがたりないといわれてゐる。このことは私たちにとつて改めなければならぬこととしてしよう。」とおつしやつて、あすの放課後学校園でみなさんの質問に答えるから、問題をたくさん用意していらつしやいといつて引きうけてくださった。

#### 4 掃除用具

学校の保けんとしてうじは深い関係がある。そうじをうまくするにはどうしたらよいかを話しあつた。山田さんが、おとうさんのとつていらつしやる外国のざつしから、電気そうじ機の見くみを説明した絵を切りぬいて持ってきた。みんなめづらしがつてそれを見







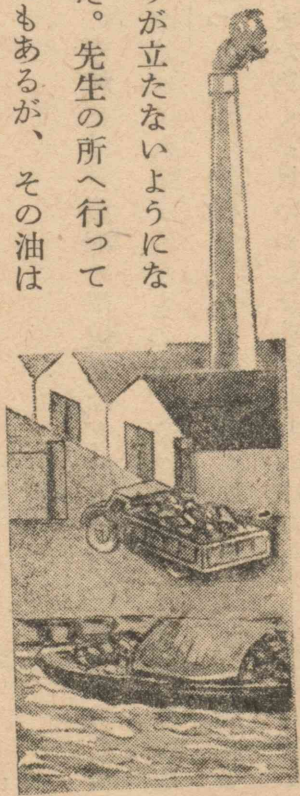
た。これでそうじをすると、ほこりを鼻にすいこむことがない。よく考えてみると、私たちの使っているはたきやほうきは、大きなごみやたくさんのほこりを下におとして、それを集めてすてるのですが、そのとき、まいあがるほこりをすいこむことになるし、そうじもじゅうぶんにはできない。私たちはそうじの時、マスクを使うことを申しあわせたが、山田さんは、「うちでは、おかあさんはお茶がらをまいてからざしきをはきます。」

と話した。私たちはまた毎日のそうじのしかたを調べて、よいそうじのしかたを考えた。これをかべ新聞に発表し、もつとよいそうじのしかたを知らせてもらうことにした。

その中に、東京からちかごろ転校してきた六年生の鈴木さん

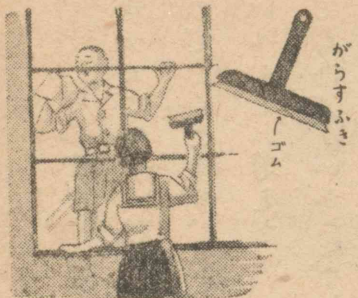
が、

「私のもといた学校では、あぶらがひいてあってほこりが立たないようになっている。」というのがあった。先生の所へ行って話したら、「そういうしかたもあるが、その油はねだんが高いから、よいといってもすぐはできないことです。」とおっしゃった。



そうじの時のごみを薬草園のおくのごみやき場にすてに行くが、そこでよく小使のおじさんがごみをやいている。ごみやき場がないとたいへんのごみがたまってどうしようもないが、

「やいた灰は学校園のよいこやしてな。」  
と、おじさんはにこにこして話してくださった。





力ぞえをしてみましよう。」とおっしゃった。

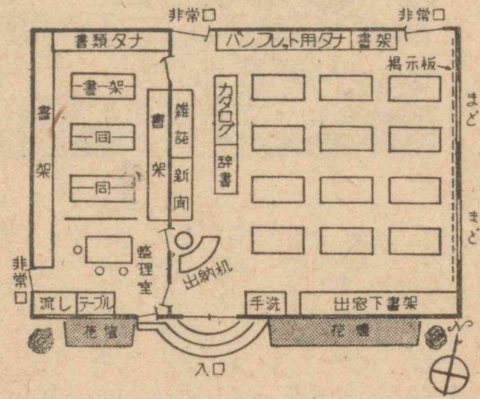
先生はそれから校長先生や他の先生方やP・T・Aの役員などの間を熱心にといてまわられたそうです。私たちも図書室をどうしてつくるかをいろいろ調べてみた。

やがて図書室が作られることになり、私たちのうちからも委員をえらんだ。

新しい図書室は文化の日に開くことになった。へやは二階の、今まで物おきになっていた所で、新しくまどをつけた。本はP・T・Aから買っていただき、私たちも読んでしまった本をなおしてきふしたので、五百さつばかり集まった。

しかし、少なくとも生徒のかずの二倍ぐら

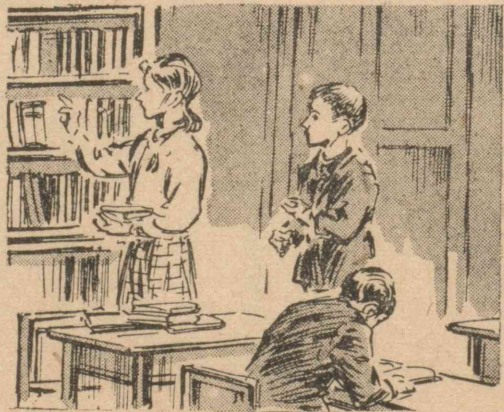
### 図書室の設計図

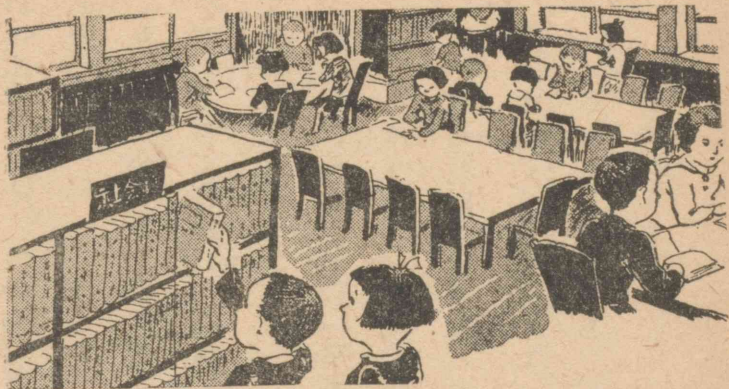


いの本がいるそうだから、まだまだふやさなくてはならない。

みんなが楽しく本を読むために、どうしたらよいかを考えてきて相談し、委員にたのんでその考えを伝えてもらうことにした。

- (1) 昼休みと放課後一時間図書室を自由に使えるようにする。(土曜の午後と日曜の午前にもなるべく開いていただきたい。)
- (2) 本のかずが少ないし、また今はじまったばかりだから、本をうちへ持って帰らないようにしたい。(しかしなるべく早く家でも読めるようにしてもらいたい。)
- (3) 本を自由に出せる方法と、カードを見てかかりに出してもらおう方法とがあるが、





いろいろな点から前の方がよいと思う。

(4) 本をていねいにあつかい、静かにするようにおたがいに注意しあい、またポスターをかいて出す。

(5) へやを美しく、清潔にすること。みんなに本を読むようにすすめたり、新しい本がきたらその説明をしたりすることも考えてもらいたい。

文化の日には、朝から図書室でいろいろなもおしがおこなわれ、先生とP・T・Aの人と私たちが集まってお祝をした。

### 三 いろいろな病気と事故

#### 1 話しあい

学校には、私たちのけんこうを守るために、衛生室や運動場、学校園などのあることを調べた義男たちは、けんこうを守る施設がずいぶん多いのにおどろきました。義男の組では、けんこうを守るということについて、みんなが熱心に考えるようになりました。

きょうの社会科の時間には、けんこうを守るにはどうしたらよいだろうという問題について話しあうことになっていました。

「秋の遠足で高見山へ行ってから、みなさんはけんこうを守る—つまり保けん—ということの問題にとりあげ、まず、学校の保けんのための施設を調べました。研究が進むにつれて、みなさんはけんこうを守る必要のあることがだんだんわかってきて、けんこうを守るにはどうしたらよいだろうという問題が出てきました。きょうは、この問題について当番のよし子さんの司会で話しあいを進めていただきますよ。」

先生のお話がすむと、よし子の司会で話しあいがはじめられました。

「では、今から話しあいをはじめます。」

よし子のことばに、みんなの手が元氣よくあがりま  
した。

「ぼくは、学校の保けんのための施設は、もつとよく  
することが大切だと思います。」

「学校もそうですが、私たちの家でも保けんのための  
施設を考える必要があります。」

「学校や家だけではたりません。町についても考えて  
みなければならぬと思います。」

つぎつぎに意見がのべられていきました。すると三  
郎がつぎのような意見をもつとよくするということだ

「保けんのための施設をもつとよくするということだ

けでは、どんなによくするのかわかりません。どんな病氣  
が多いかということ調べてみる必要があると思います。」

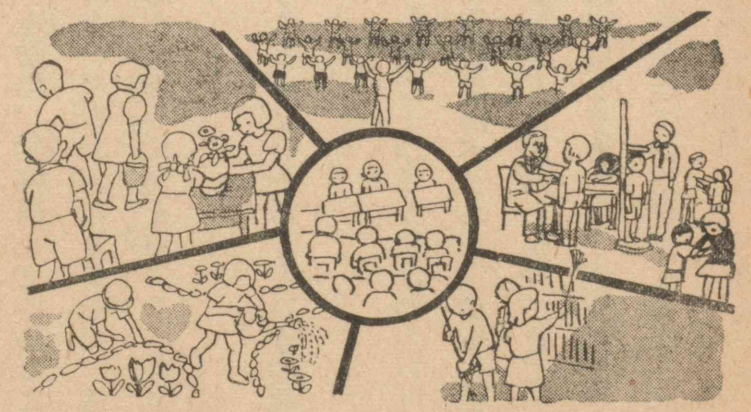
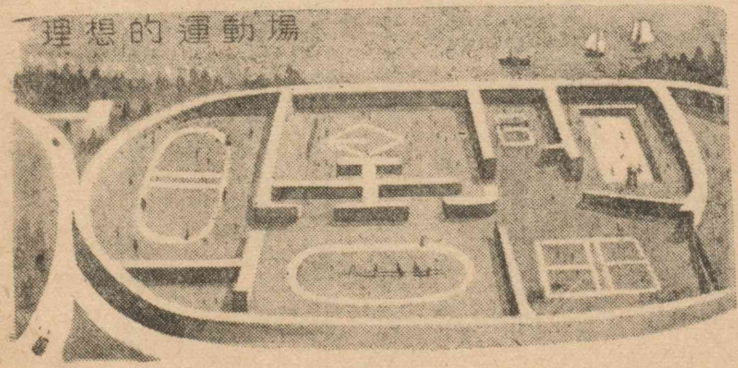
「三郎さんの意見に私も賛成です。でも保けんは、病氣のこ  
とだけでなくて、事故もはいるのではないでしようか。」

三郎と和子の意見に先生も賛成されました。そうしてつぎ  
のようにつけくわえられました。

「大へんよいところに気がつきました。ただ思いつきで仕事  
をしたのではうまくいきません。保けんという大切な仕事

は、学校や、町や、国の人々のけんこうのようすがどう  
あるかということがよくわかつてはじめてよい保けん施設

がなされるのだと思います。」



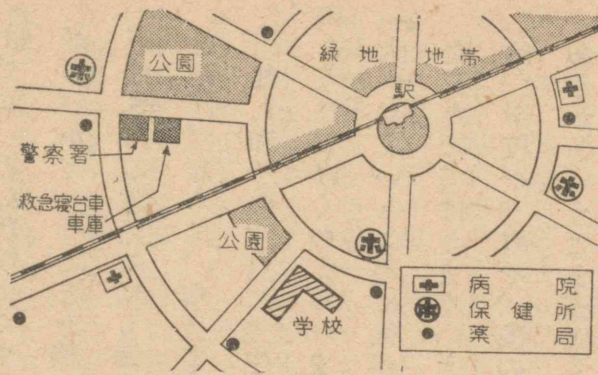
きょうの話しあいで、義男たちの組では、つぎのような問題が取りあげられることになりました。

- (1) 日本人のかかりやすい病気には、どんなものがどのくらいあるだろうか。
- (2) 日本では、どのような事故が多いのだろうか。
- (3) それらの病気や事故をふせぐにはどうしたらよいだろうか。

義男たちは、まず、病気について調べ、つぎに、事故について調べ、それをもとにして、それをふせぐにはどうしたらよいかを研究することにきめました。

## 2 日本に多い病気

どんな病気が日本には多いだろうかという問題を解決す



昭和22年	万人										
	0	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0
全結核											
肺炎											
脳出血											
老衰											
げり腸炎											
じんぞう炎											
先天性弱質											
気管支炎											
不意の傷害											
その他											

る方法について、義男たちは話しあいました。本を読んで調べようという意見と、保けん所につとめているのり子のおとうさんのお話を聞こうという意見が出ました。話しあった結果、のり子のおとうさんにお聞きする方がよくわかるということになりました。

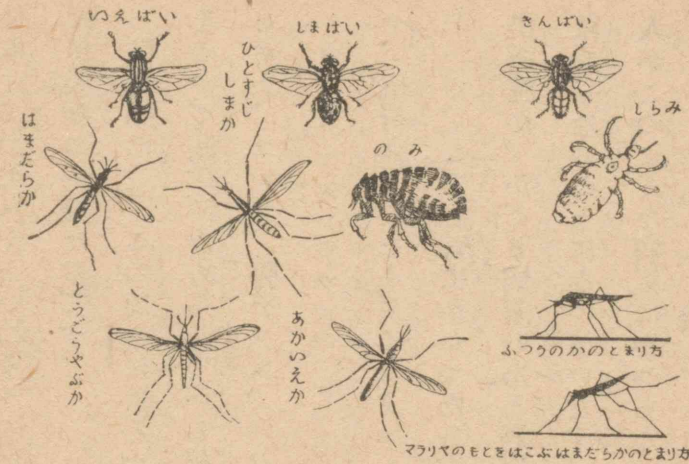
義男たちは、保けん所のつごうを聞いて、つぎの日の午後から保けん所をたずねました。

「みなさんよくいらっしやいました。日本にはどんな病気が多いかという問題でしたね。」

そういって、のり子のおとうさんは、つぎのような話をしてくださいました。

昭和二十一年十月から二十二年三月までの半年間に、





防する仕事に一番力を入れているのです。話がおわってから、義男たちは保けん所の中を見せたいだいたり、資料をいただいたりして学校に帰りました。

### 3 いろいろな事故

保けん所からいただいてきた資料の中に、事故のためになくなった人の数が出ていました。それによると、昭和二十一年十月から二十二年三月までの半年間に約二万人の人がなくなっていることがわかりました。義男たちは、どんな事故でなくなるのだろうかを調べることになりました。先生からおかりした本で調べてみると、つぎのような

ことがわかりました。

一番多いのが交通事故で、日本全体で一日平均十人の人がなくなっていることがわかりました。交通事故には、汽車、電車、自動車、船などの事故がふくまれています。そのほかに、火災や風水害、地震のような災害のためになくなる人もかなりあります。それから工場で働いている人々の機械による事故や、鉱山で働いている人々の山くずれや、ばく発による事故もわすれてはならないものです。

みんなは、保けんがどんなに大切であるかを感じました。

### 四 けんこうな町のもけい作り

交通(死者)	昭和年	自動車	電車	自転車	汽車
	20	1179	865	29	1013
	21	1801	987	37	1148
	22	282	—	185	—
	23	2159	764	34	503

火災	昭和年	回数	焼損建物(坪)	死者(人)	負傷者(人)
	19	12381	6094469	362	1361
	20	10920	3519984	—	—
	21	14460	1070886	420	1695
	22	18806	1179233	485	2695

国警本部調



## I 計 画

いろいろな病氣と事故について、日本の現状を知ることのできた義男たちは、つぎの問題である『それらの病氣や事故をふせぐにはどうしたらよいだろうか』という点について研究していくことになりました。みんなの意見で、研究をもとにして、けんこうな町のもけいを作ってみることにきめました。

病氣や事故のない町で、しかも楽しい明かるい町の条件について、みんなて話しあいました。条件が五つあがりました。そして、それを五はんで分たんすることにしました。

### (1) 治りょうと予防……一ばん

このはんは「けんこうなからだにはけんこうな心がやどる」という考えから、私たちのけんこうなからだを守る施設をもけいの中につくります。その施設には、二つの仕事があります。一つは、私たちがけんこうをそこねると病院へ行

き、お医者さんになおしてもらう時の治りょうです。もう一つは、ふだんから病氣にならないように相談にのってもらったり、注射をしてもらったりする仕事でこれを予防といいます。この二つの仕事は医学の発達と深いかんけいがあるので、調べるのがたくさんありそうです。

### (2) 体育……二はん

このはんは、けんこうを進め、強いからだをきたえて行くためのしくみを、もけいの中に取り入れるはずです。だれでも加わることのできるこういう施設は、昔の日本にはあまりなくて、だいたい、外国のものがうつされたのだというところです。外国の進んだ施設の研究が大きな仕事になるだろうと思われれます。

### (3) 緑地運動……三ばん

町に緑地をつくるという新しい計画では、まだ、外国に学ぶところが多いけれども、自然にめぐまれた日本では、むかしからとり入れられていたようにも思

われます。緑地は太陽の光と熱を地球にとりいれて、私たちのけんこうに役立つだけではなく、火事などをふせぐにもなくてはなりません、けんこうな町には必ず緑地をつくる必要があるということになりました。

(4) 清潔……四ばん

清潔がけんこうにとって、どんなに大切かはいうまでもありません、私たちの町でも、大そうじをし、下水を作り、はいをなくし、ごみのしまつをしますが、町はまだまだきれいとはいえません。けんこうな町には、もっといろいろな新しい方法を考えてよいように思われます。

(5) レクリエーション……五ばん

けんこうということは一ばんの人たちが考えたように、けんこうな心の問題でもあります。このはんの人たちは、からだはじょうぶでも心のけんこうでない人は、ほんとうにけんこうだとはいえないと考えました。からだをすこやかに

そだてると同じように、心の衛生にも注意し、心のけんこうをまもるために、私たちのもけいに心のけんこうをまもる施設も考えたいというわけです。

それぞれのはんは、このような考えをまとめました。そして、いよいよもけい作りをはじめることになりました。もちろん、もけいを作るという仕事のために、いろいろ調べたり、話しあったり、見学したり、町のそういう仕事にたずさわっている人々の話を聞いたりします。ですから、もけいにはあらわしきれないほど、たくさんの方々と研究するにちがいありません。そこで、はんの人たちは、もけい作りの仕事がつかりすんだら、別にてんらん会を開いて、先生方や家の人たちをまねき、いろいろ研究したことを見ていただいたり、説明したりしたいと考えているようです。

2 治りょうと予防 一ばん

ぼくたちはけんこうな町のパノラマには、まず治りょうと予防をうけもつ施設がな

くはならないと考えた。その一つはそれをどこにおくかということ、もう一つは何をおくかということである。そこでまずこの町の病院と保けん所がどこどこにあるかを調べてみた。そうするとそこにはかなりのかたよりが見られた。先生が、  
 「日本全体を見てもかたよりがあつて、お医者さんのいない村（無医村）がかなりあります。」とおっしゃつて、表を見せてくださった。都会では消防しよに救急車が備えてあり、しんだい自動車の会社もある。しかし日本全体では無医村がかなり多い。だから病院と保けん所の分布をよく考えてもけいにあらわすことにした。

全国の病院の数 17年度					全国の医者・看護婦 薬剤師などの数(人)					
	官立	公立	私立	計	昭10年	12年	14年	20年	21年	
一般病院		898	1924	2822						
伝染病院		73	3	76						
精神病院		19	96	115	医 者	52581	61799	62324	39334	59616
結核療養所		123	52	175	歯 医 者	20000	22971	23311	17496	23391
奨 健 療		45	1	46	薬 劑 師	24957	27156	29833	27961	23333
癩 療 養 所		10	1	11	看 護 婦	102966	19849	121059	101549	167670
その他		5	0	5	産 婆	59569	61732	62307	46122	57300
合 計		1193	2077	3250						

厚生省調べ

無医村の表 (昭和21年4月現在)

府 県 名	村 名	医 者 の 数	府 県 名	村 名	医 者 の 数
北海道	北 青 岩 宮 秋 山 福 波 栴 群 埴 千 栗 神 山 岐 静 愛 三 新 富 石 福 長	4 50 52 57 14 8 15 3 6 7 5 1 3 8 6 9 4 2 15 5 0 6 5 2 6 7	滋 京 大 兵 奈 和 鳥 島 岡 広 山 德 香 愛 高 福 佐 長 熊 大 宮 鹿	賀 都 阪 庫 良 山 取 根 山 島 口 島 川 媛 知 岡 賀 崎 本 分 崎 島	14 44 22 69 20 0 64 17 44 37 14 10 25 24 38 3 0 8 36 13 2 未 報 告 計 1723

内部のいろいろな病気をあつかうものです。胃や腸の病気をあつかうものや、胸の病気をあつかうものがあります。これにたいして体の外側をあつかう方には、外科

しかし、歯医者さんがいく  
 らいても、おなかをこわした  
 人をなおすことはできない。  
 そこで、いろいろな医者が必要になる。校医の先生の所へ行つてお聞きしたら、  
 「医者の学問や研究は、いくつにもわかれていてたいへんむずかしいが、私のように内科というのはからだの

(万人)	0	1	2	3	4	5
く				72531		
か				72083		
出			58144			
腸					26661	47275
弱					23883	39433
死				18303		
不				19142		
産				11402		
明				10283		
産				8695		
り				7447		
け				4662		
く				4548		
つ				3034		
因				2937		
形				2604		
ス				2287		
ラ				2227		
				1973		
				1733		

**わが国の病気に  
よる死亡原因**

昭和21年10月より  
22年3月まで

てはならないと思った。

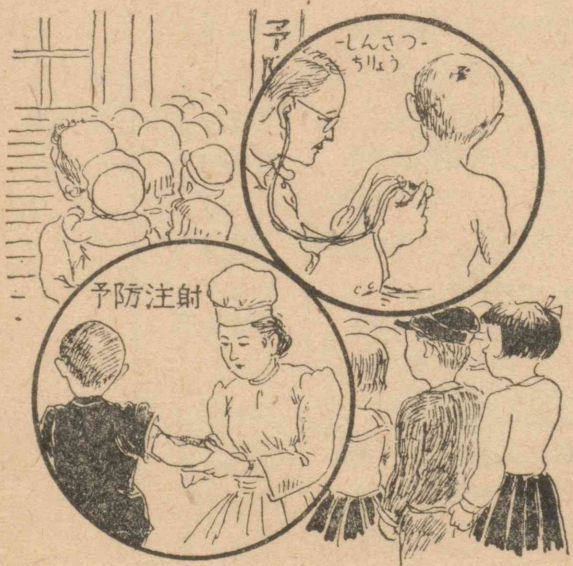
しかし、それより大切なのは病気にかからないように予防すること

と云って傷をなおしたり、手術したりするものや、ひふにできたいろいろの病気をあつかうひふ科というのがあります。」と説明してくださいました。この町でたてた病院へ見学に行ったらげんかんにいろいろな科のなまえがあつた。けんこうな町には、どうしても、こういう大きな病院をつくり、いろいろな科のお医者さんをおくようにしなく



である。保けん所へ行って所長さんにきいたお話を絵であらわすと、前のページのようになる。この中には、四ばんの人といつしよに考えた方がよいこともたくさんあるので、両方から委員を出して別に調べ、残ったものは予防のための医学がどんなに進んできたかを研究することにした。みんなていろいろな本を読んで話しあった。

いちばん有益だったのは、中田君のパスツールの話であった。それらの話から、医学の進歩について年代表を作ってみようということになった。



病院の見学の時、この町では乳幼児と青年の病気にかかるわりあいが高いきいた。

医学衛生上の発明発見

年代	発明発見のことがら	発明発見者(国籍)
1770	消毒法をはじめ	プリングル (英)
1796	種痘法の発見	ジエンナー (英)
1819	聴診法の発見	ランネック (佛)
1838	食品要素(脂肪たん白質炭水化物)の発見	リービヒ (独)
1840	肝臓のはたらき発見	ベルナル (佛)
1853	白血球のはたらき発見	アイルヒコフ (独)
1871	癩病菌発見	ハンセン
1875	ワクチン療法発明	パストール (佛)
1880	腸チフス菌の発見	イーベルト
1882	結核菌の発見	コッホ (独)
1883	コレラ菌の発見	コッホ (独)
1884	ぶどう状菌の発見	ローゼンバハ
1885	無痛の手術法	ホールステッド (米)
1889	破傷風菌の発見	北里柴三郎 (日)
1890	ジフテリアの予防法	ベーリング
1891	ジフテリアの血清療法発見	北里柴三郎 (日)
1894	ペスト菌の発見	北里柴三郎 (日)
1897	赤痢菌の発見	志賀潔 (日) カルゼ
1910	梅毒菌の人工培養	野口英世 (日)
1911	ビタミンの発見	鈴木梅太郎 (日)
1938	ペニシリンの実用	フローレー (英)

「日本全体でもそうですが……」

院長さんは、そういつて、下のようなグラフを見せてくださった。医学はずんずん進歩しているのに、これはまだはずかしい日本のありさまです。ぼくたちはもけいを作りながら、医学の進歩におくれなためにはどうしたらよいか、ということを考えて、もけいができあがったあとでみんなに相談しようと思った。

3 体 育 二はん

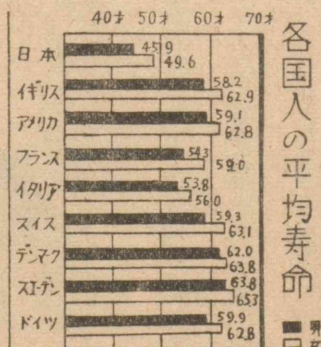
ぼくたちは野球がだいすきである。しかし、この町には野球をするような広い所がない。けんこうな町にはぜひ広い運動場がほしいと思つて、はじめ一ばんから五はんのもの全部が話しあつた時、町のはしの方につくるよ

年齢	死亡率		平均余命(年)	
	男	女	男	女
0	11.30	9.92	46.92	49.63
1	3.70	3.53	51.95	54.07
2	2.05	2.09	52.92	55.02
3	1.35	1.36	53.02	55.13
4	0.91	0.93	52.74	54.89
5	0.65	0.66	52.22	54.40
10	0.24	0.25	48.25	50.47
15	0.48	0.70	43.85	46.33
20	1.00	0.96	40.41	43.22
25	0.92	0.91	37.35	40.23
30	0.77	0.81	33.89	36.83
40	0.89	0.90	26.22	29.65
50	1.73	1.21	18.85	22.15
60	3.55	2.27	12.55	15.07

(毎日新聞社調査による)

日本人生命表

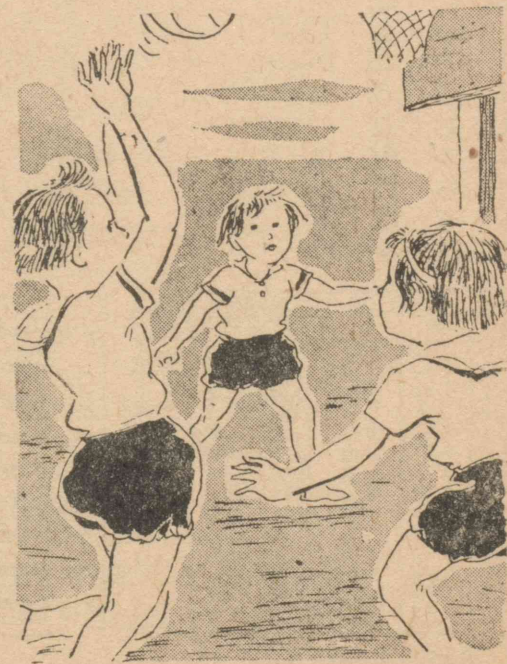
死亡率は各才百人に付



うにしてもらいたいと話した。町の運動場は三ばんの人たちの緑地計画の一部にはいることになった。えらばれた岡村君たち三人は、三ばんへいって仕事をするが、二ばんともれんらくをとることになっている。

ほかのものはけんこうな町にふさわしい運動について考えた。ま

ずはじめにぼくたちの学校の人たちが、ふだんどんな運動をしているかを調べた。その中からよいものをえらんで春夏秋冬にわけ、それにはどれくらい運動場があるか、またどんな設備があるかを考えた。しかし、ぼくたちは運動がけんこうによいと聞いている



し、たしかにそうだとも思うが、運動をしてからだをこわしたという話もきいている。これは一たいどういふことなのだろう。みんなで話しあったがよくわからなかった。先生が理科室へつれて行つてくださって、人のからだのもけいの前で話をされた。

人間のからだはきんにくというものでつつまれているが、これは正しく使うとよく発達する。しかし、全体が同じようにそろって発達するのがよいので、ある部分だけ使うとそこだけ発達してしまふ。特別な仕事をしている人たちによく見られるもので、こうなると、からだの内部にもよくない。いちばんよくないのはむりをしたため、からだの一部につか

れがかさなることだ、ということであった。ひとつの仕事できまつた方には

学校の生徒の運動の調査表



何も使わない運動  
35%

鬼ごっこ  
ふさけっこ  
かくれんぼ

ありあわせの又自分で作ったもので  
19%

なわとび  
石けり

道具をつかう  
46%

まりつき  
野球  
自転車のリ  
鉄棒  
ドッチボール



(東京市田小学校調査による)

かり運動したときは、これをほぐす運動をしなければならない。このことを表にして教室にかかげることにした。

運動は誰でもしなければならぬものである。けんこうな町は、運動場だけでなく、そのほかにも町の人たちのけんこうを進めるためにいろいろな施設をつくらなくてはならない。しかし運動場さえもないぼくたちの町には、そのほかのものはほとんど見あたらない。ぼくは、いつか本で見たことのある大きな町の公園や競技場を思いだした。山本さんは、ちかごろ日本にはじめてでてきたという「スポーツセンター」の絵をもつてきてくれた。こういう形の建物は、明治になってからしだいに外国からはいつてきたものである。だから、外国にはその進んだものがあるにちがいないというので、みんなで調べてくることにした。外国ではたいいていの人があるのからだについてよくあつた運動をしているので、年をとつても一日中家の中でじつとしてゐる人は、ほとんどないということである。日本人の中に、早く年よりらしくなる人があるのは、

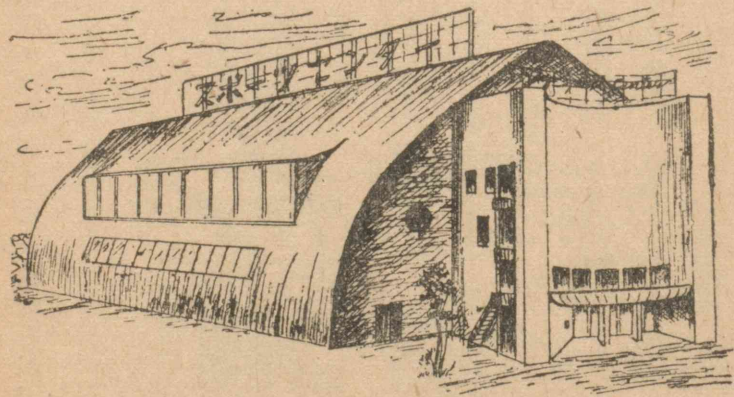
運動をやめてしまうためかもしれない。私たちの町や村にも運動の設備がほしいと思う。

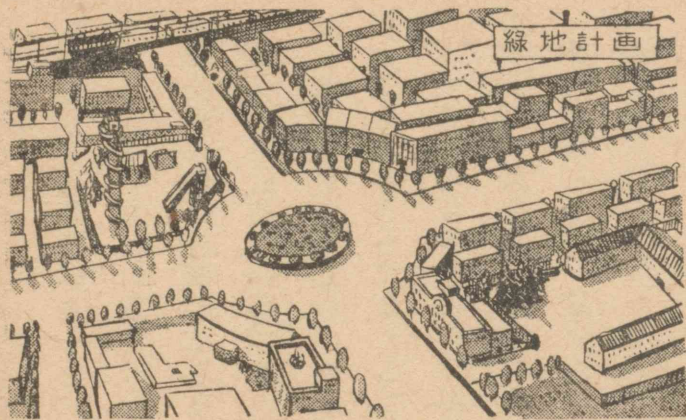
岡村君たちは、ぼくたちの調べた材料をもつていて、けんこうな町のスポーツ・センターをつくるのだといつてはりきつていた。

#### 4 緑地運動 三ばん

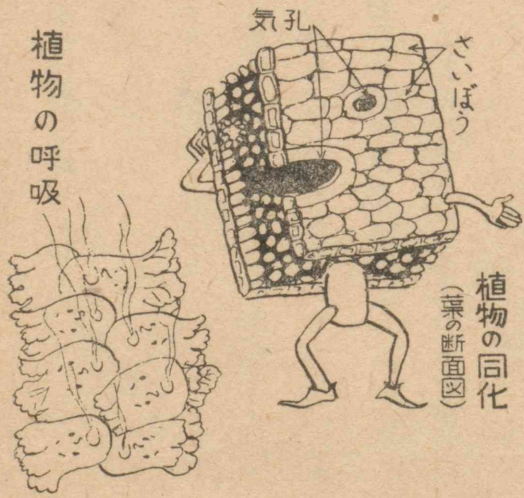
緑の野原や草木は見た目もすがすがしいものである。緑地運動というのは、なるべくたくさんそういう土地をつくろうという運動のことである。

私たちは先生から、一さつの本をかりて読んでみた。それによると植物が太陽から光と熱を受けて、力のもとを受けとる。その植物を動物が食べ、こんどは人

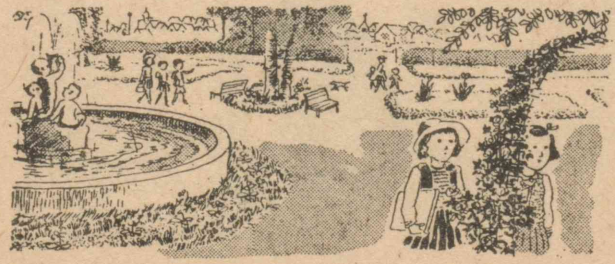




帰ってきてすぐもけいの公園づくりにかかった。二  
 はんの方で、いろいろ外国の進歩したそういう施設の  
 ことを調べたのを、岡村君たちが知らせてくれたので、  
 その方はどんだん  
 はかどった。つく  
 っているさいちゆ  
 うに、ふとしたこ  
 とから、昼はよい  
 が、夜、植物を家  
 の中へ入れておく  
 といけないという  
 ことをいうが、ほ



がそれらを食べて力のもとをたくわえる。その力のもとにはエネルギーとよばれるが、  
 これはおおむかしの動物、植物の中にもたくわえられていて、石炭をたくと力がてる  
 し、石油もそうである、というのです。「太陽のエネルギーはほ  
 んのわずかし地球にとどまらず 大部分はむだにはねかえされ  
 てしまう。われわれは植物をうえて、このエネルギーをすこして  
 もとらえなくてはならない。」と、その本には書いてある。  
 たいへんおもしろい話である。けんこうな町にはなるべくたく  
 さんの緑地をつくりたいと、みんなで話しあったが、ちやうど三  
 ぱんにはいつていた小林さんのおとうさんが、町役場へつとめ  
 て、公園の仕事をしていられるというので、さっそくおたずねす  
 ることにした。二はんの岡村さんたちもいっしょに行くことにな  
 った。





んとうだろうか、どうだろうか、という話が出た。理科の本を調べたら、呼吸作用と同化作用の説明書があった。私たちは緑地にますます自信を持った。

5 清潔 四ばん

私たちの町の清潔がどんなにしていたもたれているかを調べてみた。

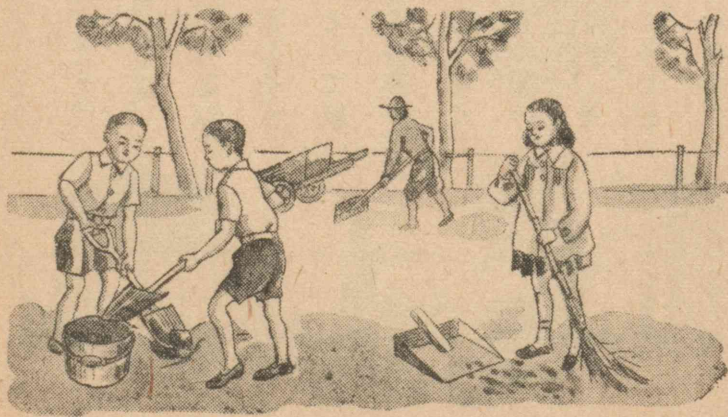
大そうじは毎年一回、五月ごろ行うというきそくがある。むかしは、年のくれにすすはらいというのが行われた。今は、か、はい、のみなどの出るまえにやって、そういう虫を卵のうちになくしてしまい、また、つゆをひかえて風を入れ、ごみを出して、いろいろなものにかびがはえたりするのを防ぐために、五月に大そうじをするのだと役場の衛生のかかりできいた。

大掃除はごみが一度に出るので、それをかたづけけるために日をちがえて行うが、ふだんの日にでるごみもなかなか多いそうである。衛生のかかりの人からたのんでもらって、ごみのしまつをする所を見学に行った。なるほどものすごいごみの山で、やき

すてたり、うめたりするのだそうだが、とてもやりきれませんとかかりの人はいつていた。

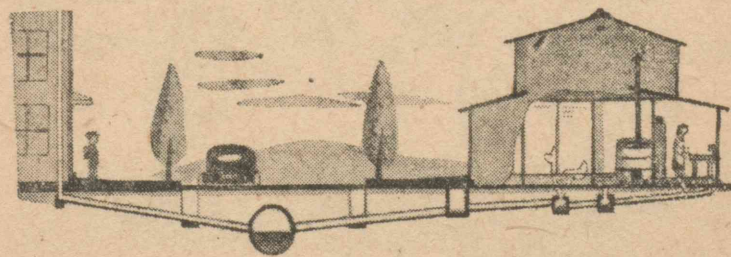
ふつうの水道は上水道といい、よごれた水の方を下水道というのだそうだが、なかなか大がかりなものがある。多くのどぶ水は、川から海へ流れこんでひとりでにしまつされてしまうが、大きな町ではきたないどぶは衛生の点からよくないので地下にうめた鉄かんの中をおし、汚水処分所という所へ集めるといふ。この町にはないが、そこはきたない水をきれいにして川へ流す仕事をしているということである。

町ではこのほか、はいとりデーをしたり、糞尿のしまつをしたりする。清潔が私たちのけんこうをたもつ





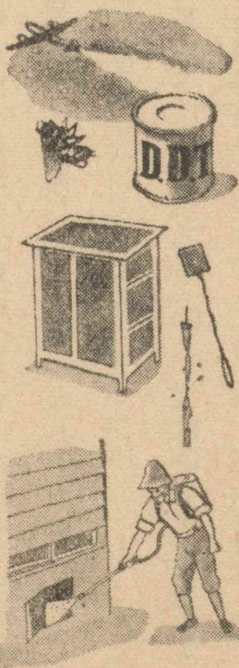
ためには、かくことができないからである。しかし、これらの方法にも、ぐあいの悪い点がたくさんあり、また町を歩いてみても清潔であるとはいえない。けんこうな町はこれではならない。町を歩いて気をつくことは、町の人々が自分の家をそうじしたごみを町のすみにすてたり、歩いていて紙などをすてたり、また、つばやたんをはく人の多いことである。調べてみると、こういうことはきそくでも、止められていることであるが、私たちの悪いくせである。日本人はきれいずきでもあるが、それは自分のことだけであって、大勢の人々のことをあまり考えない。また、生活のしかたも今まで



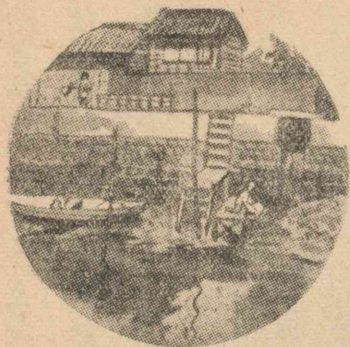
のしきたりをまもっていて、ものごとをりくつに合うように改めていく心がとほしい。

私たちは、外国のことを書いた本で、そういうことについて調べ

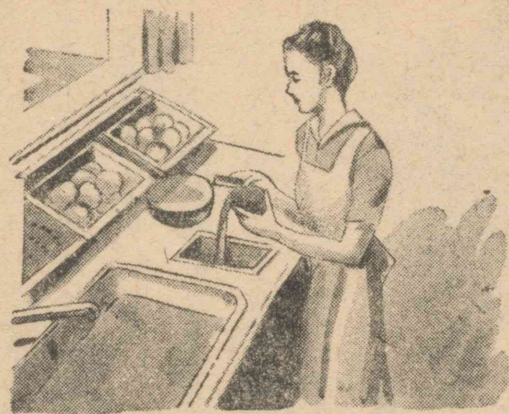
たが、なかなかおもしろい話がたくさん集まった。その中のひとつにつきのようなことがあった。



「アメリカのある州では、はいをなくそうとしてみんなが力をあわせ、D・D・Tを使ったところが、はいたたきは買手がなくなり、まどのかなあみやはいとり紙をはずしてしまった。学者がじっけんのためにはいをさがしたが、二週間かかって、一匹もつかまらなかったそうである。この

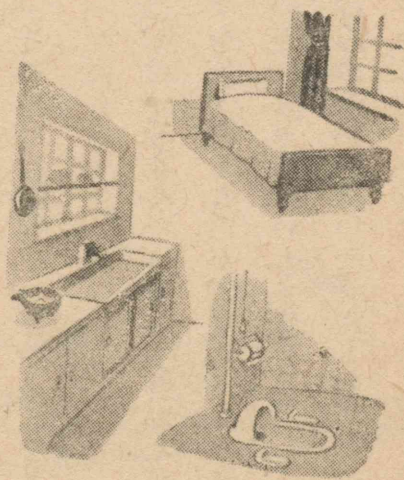


話と私たちの町とくらべてみると、ほんとうにはずかしいと思った。はいは伝染病のなかだちをすることを考えると、なんとかはいのいない町にしたい。



しかし、それには、保けん所や役所の人たちだけにまかしておいたのではだめで、町の人ぜんたいが力をあわせて、はいのわかないようにしなければならぬと思った。

私たちはいろいろ考えて、もけいに下水道とごみの処理場をつくった。そしてそういう設備は一けん



一けんの家づくりかたとも深いかんけいがあるので、その点から町の家を考えてみた。ごみの出ない電気そうじ機や料理の方法や台所のしくみ、水洗式の便所と下水の設備、はい、か、のみなどをたいじする方法などについて研究してみた。

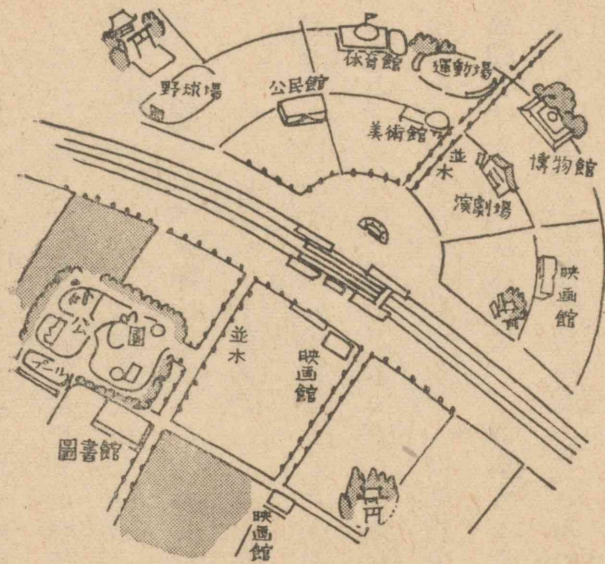
その研究をかべ新聞にしてみんなに知らせた。

#### 6 レクリエーション

#### 五はん

一しょうけんめい自分の仕事をした人々が、あすもまた新しい元気を出して仕事をしようとするには、楽しんだり遊んだりするところが必要である。ぼくたちはもけいの中にそういうレクリエーションの施設を作ろうというのである。

運動のすきな人は運動場へ、散歩する人は公園に行く。しかし、映画やしばいを見る人もあるし、美術館や博物館へ行きたい人もあり、本を読むのがよい人もあるにちがいない。それらはからだばかりでなく、私たちの心のけんこうのために大切な施設である。ゆたかな心を持つことは、どんなに私たちの生活をたのしくしてくれるかわ

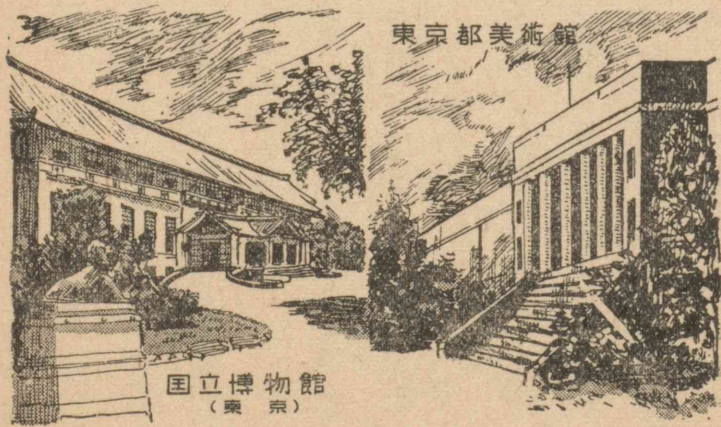


からない。

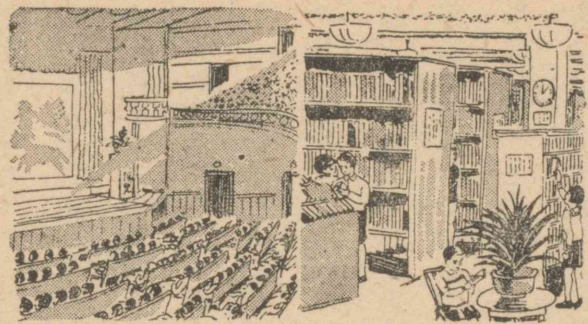
ぼくたちは町のそういう施設を調べて分布図をつくり、その入場者からようすをきいてみた。この町には美術館も博物館もないが、いろいろなてんらん会は町の公民館でおこなわれる。土曜、日曜は一ばんの人がたくさん見に来るが、ふだんは夕方になるとしめてしまうので、学生のだんたいが大部分だという。図書館は新しくたてられたが、学生と特別な職業の人が行くだけで、それも土曜日、日曜日が多いそう

である。そこへいくと映画の方は、もちろん土曜、日曜が多いが、ふつうの日でも夜はなかなか多く、しかも一ばんの人がそうとうはいると聞いていた。

レクリエーションは人によってちがうばかりでなく、時代や土地によってたいへんちがう。むかしのレクリエーションは三ばんで、外国のレクリエーションは二ばんで問題にされたので、ぼくたちはんから両方にふたりずつ加わった。三ばんへ行った吉田さんたちは、むかしの人がどんなたのしみを持っていたかを知らせてくれた。その時ぼくたちは、日本では、今でも人々がふだんの生活をなるべくくりくつにあわせ、少しでもひまを作りだし、レクリエーションをするとい



う考えが少ない。ことに女の人がそうである。しかし、ちかごろはだんだんそうでなくなってきたという話を話した。また、二はんへ行った山口君は、外国



ではそういう点でひじょうに進んでいるようだが、ぼくたちはそれをまなぶといっしょに、日本人にふさわしい新しいレクリエーションを考えるべきではないかと話した。ずいぶんいろいろ話しあったが、よくわからなかった。しかし、話しているうちにつぎのようなことがわかった。それは、

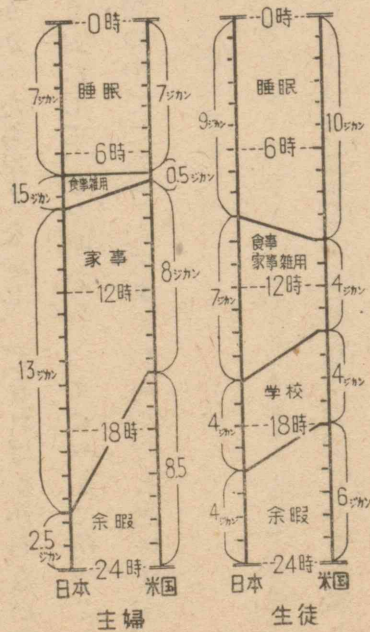
『私たちの生活の中には、不合理なことが多い。しかも長い間のならわしの中には、たくさんの改めなくてはならないこともある。私たちは外国のよい点を学んでいかなければならない。たとえばおかあさんが一日中家の仕事にお

われてレクリエーションをする時間が少ないことなどは、生活を合理化して、ぜひ改めていきたいことのひとつである。』

先生が、お聞きになっていて、「いろいろな勉強をしてきました。が、やがて、六年生になるみなさんが、そういう考えを持つようになってきたことは、たいへんうれしいこととおっしゃった。」

きょうは、もけい作りのてらん会の日です。義男たちは、先生方や、保けん所の

日本人と外国人の生活時間の比較



人や、家の人をまねいていろいろと説明しました。

発表のあとで先生は、

「けんこうは、私たちのしあわせな生活にとってなくてはならないものです。けんこうをそこねることは、その人ひとりの不幸であるばかりでなく、家族の人の心を暗くし、社会の人々のめいわくになることも少なくありません。けんこうのためいろいろな仕事を進め不幸にも病気にかかったら早くなおし、できればかからないようにし、さらに一そうからだをじょうぶにして、心を明かるく、すこやかに持つことが必要です。みなさんは今までの学習の中でこのことはよくわかったと思います。」とおっしゃいました。

義男たちは、みんなうなずきました。

「先生、ぼくは、今までの研究で、保けんということが、どんなに大切であるかがよくわかりました。しかし、ぼくたちのけんこうを守るためには、ぼくたちでできる

ことは力をあわせて実行していかなければならないと思います。」

光男が力強くそういいました。そのあとをうけて正子がいいました。

「私もそう思っていました。学校でも、家でも、町でも、私たちでできる仕事をみんなですうだんして、実行していきたいと思えます。」

「賛成。賛成。」

みんな心から賛成しました。

## 協力する社会

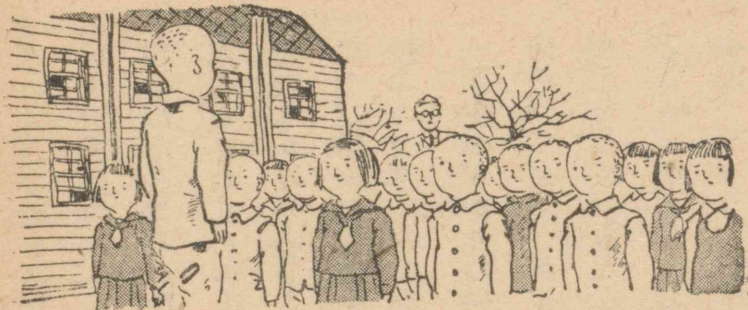
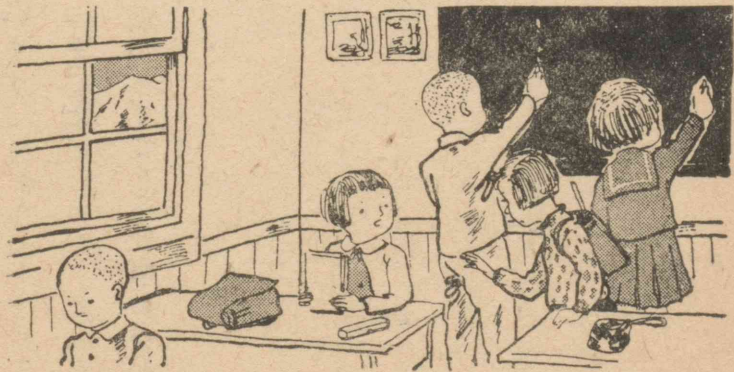
### 一 まどガラスのはいつた日

朝のひやりとした空気が、教室の中に流れこんできます。

「寒くなつたわ。けさ、初雪がふつた地方もあると、ラジオで聞いていましたよ。」

和子は道具を机の中にせいとんしながら、今はいつてきたとし子と話をしています。

委員をしている三郎とよし子は、うしろの黒板にねつ



しんにけいじをしています。

「かぜひきの多い季節になりました。かぜはいろいろな病気のもとになるといわれます。お互いに気をつけましょう。」

そこまで書いたとき、それを見ていた進すすむたちは思わず教室のまどをふりむきました。ガラスが二枚ふたまいわれています。そこからはつめたい風がすうすうはいつてきます。

やがて、始業のベルがなりました。けさは、四年以上の朝の集まりがあることになっています。

六年生の学級委員は、先週の学級委員会で問題になったことを話しました。三郎やよし子はまどガラスをわらないように気をつけようという意見を出しました。

委員の話が終ったとき、かかりの先生はみんなの前に立って、

つぎのような話をされました。

「いま、委員の人から話があったように、ちかごろまどガラスのわれたところが目立つように思います。このあいだのたい風のとさわれたのがありますが、みなさんのあやまちでわたのもかなりあるようです。これについては、めいめいの学級や、学校の相談会でもよく話しあってもらいたいと思います。」

衛生のかかりの先生からのお話によると、このごろ寒さに向かつてきて、かぜをひいて学校を休んだり、休まなくてもせきをしている人などが多くなつたそうです。」

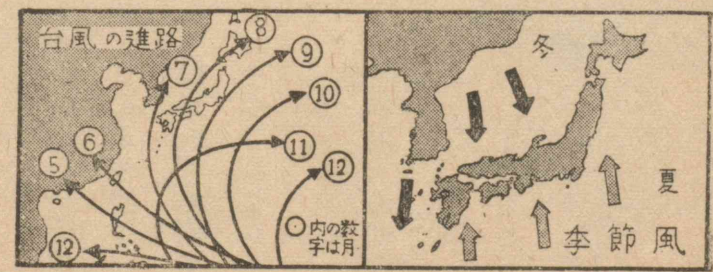
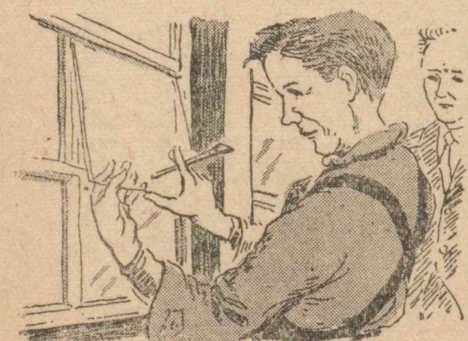
どこかでせきをする声も聞こえます。先生はまた話をつづけました。

「寒くなつて、このようにまどガラスがわれていては、みなさんのからだにも悪いことは、いうまでもありません。そこで、学校では町の役場の方へもお願いしましたところ、役場から費用を出して全部いれてくださることになりました。」

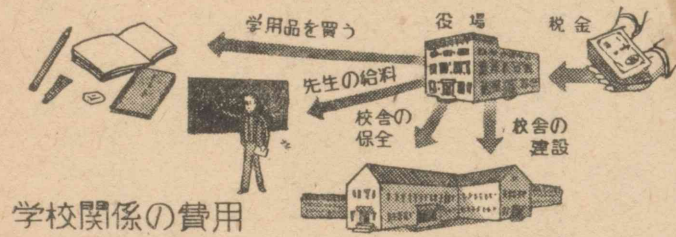
近いうちに、ガラス屋さんといっしょに役場の方からかかりの人がきて、新しいガラスを入れてくださるそうです。」

先生のお話が終ると、みんなホッとしたように顔を見あわせました。三郎やよし子たちは、ほんとうによかったと思ひました。

それから一日おいて、おひるやすみの時に、役場の人がガラス屋さんをつれて教室にはいつてきました。先生が、ガラスを入れにきてくださいましたといわれたので、みん







学校関係の費用

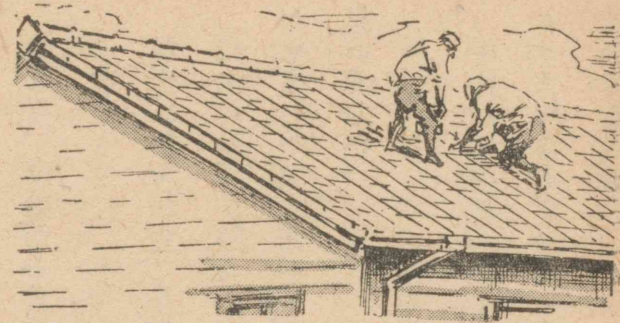
とわらいながら話しました。進たちは、役場はいろいろな仕事をやっているのだな、と思いました。

ガラスが全部はいつた教室の中は、きゆうにあたたかくなつたように思われました。

「おじさんたちは、西小学校の方へもまわって行くのですか。」

と、進がたずねると、かかりのおじさんは、

「この町の小学校や中学校には、どこにもよくてかけていきます。また、先生方も役場においてになりますよ。みなさんが安心してべんきょうできるように、町の費用でこわれたところはおし、いるものは買い入れるようにしているのです。でも、この冬の間、もうわらないように気をつけてくださいよ。」



なは、思わず喜びの声をあげました。

ガラス屋さんは、木ばこの中から板ガラスをとりだし、じょうずな手つきでガラスきりを使って大きさをあわせると、見ているうちにすぐまどへはめてしまいました。みんなは少しはなれて見ていました。新しいガラスはすき通つてどのガラスよりもきれいです。

「よかつたね。おじさんありがとう。」

「紙をはつても、すぐやぶれるのでこまっていたけれど、もうだいじょうぶだね。」

そういつたのは、まどぎわにこしかけていた進ととし子でした。役場のおじさんは、前にも、教室のあまもりをなおしに、屋根屋さんといっしょにきたことがあります。それで進たちは、顔をよくおぼえていました。

午後の時間はじめてした。先生は、まどの方を見てから、

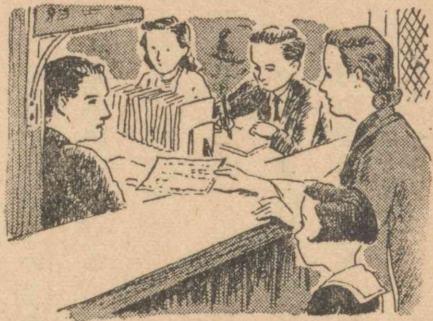
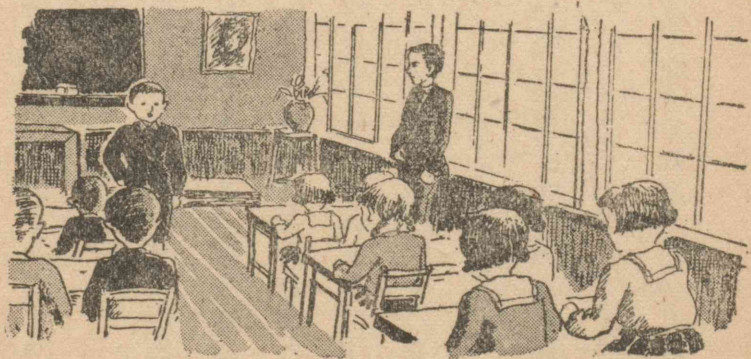
「ガラスが全部はいつてよくなりましたね。進君やとし子さんのところも、もう風が吹いても寒くはないでしょう。」

といわれました。

「このガラスは町の費用でいれてくれたのだそうです。西小学校やほかの学校のおせわもしていると、さつき役場の人から聞きました。」

進がいうと、先生もことばをついで、

「そうです。この小学校は、この町の人々の学校です。ですから、町にある学校のことは、ほとんど



町の費用でやっているといつてよいでしょう。」と、話されました。

「この前、教室の屋根をなおしたのもそうでしょう。」

「水道のじゃ口をなおして、みんな使えるようにしてくれたのもそうですか。」

みんなは、口々にいいました。

「町には、学校のための費用が、そんなにあるのですか。」

そのとき、今までだまっていた道雄みちおがいいました。

すると三郎はいいました。

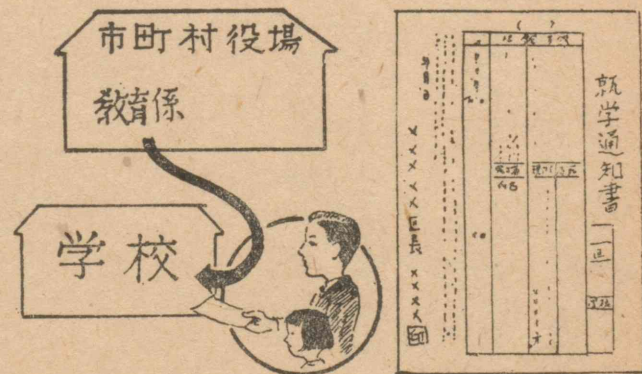
「ほくもよくわかりません。けれども町の費用というのは、町の人々から集めた税金ぜいきんで、そのおかねはいろいろなことに使うのだということを、前に聞いたことがあります。」

「わたくしもそうだと思います。このあいだ新しく買った消防自動車も町の費用で買ったのだと、おとうさんがいっていました。」  
と、みちよもいいました。

「それでは、役場は、学校だけでなく町ぜんたいの仕事のお世話をしているわけですね。」

道雄がいうと、このごろ転校してきたあき子がいました。

「わたくしがこの学校にうつってくる前に、おかあさんといっしょに前の学校でいただいた在学証明書をもつて町の役場へ行きました。私たちが、学校のかかりのところへ行くと、この東小学校へ行くようにといって、書きものをくださったので



す。そのかかりでは新しい一年生にあがるしらせも、出すのだそうです。また、戸籍がかりと書いたまだ口のところへも行って、この町へうつってきたという寄留届を出しました。そのとき私はずいぶんいろいろなかかりがあるものだとびっくりしました。」

あき子の話をききながら、みんなは役場の仕事はどんなものだろうか、一度見に行きたいと思いました。

「まだガラスをいれてくれたり、屋根をなおしてくれたりするのとは何かかりかしら。」

みちよがいいました。

「あき子さんが届を出しに行ったという学校のかかりかも知れないよ。」

「ガラスをわって、かかりの人にたびたびきてもらうのは、よくないと思うわ。」

「ほかの小学校ともくらべられるわね。」

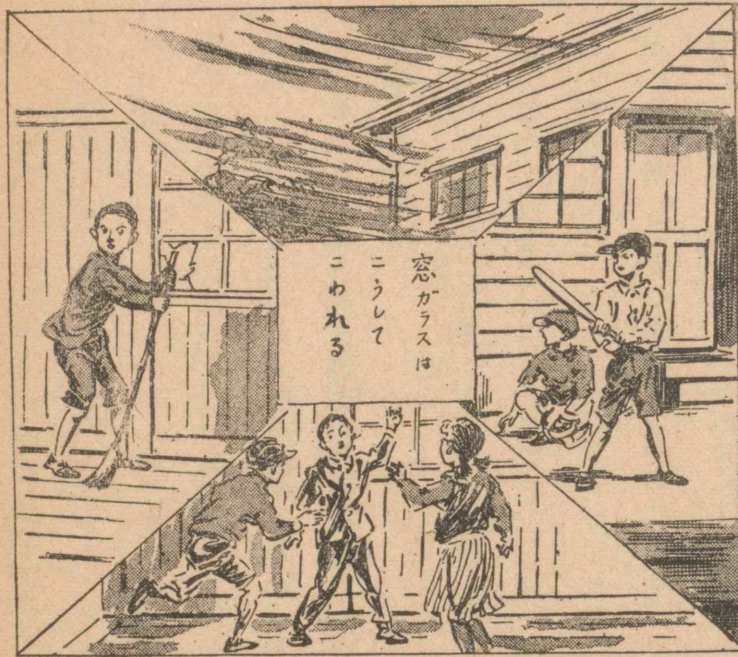
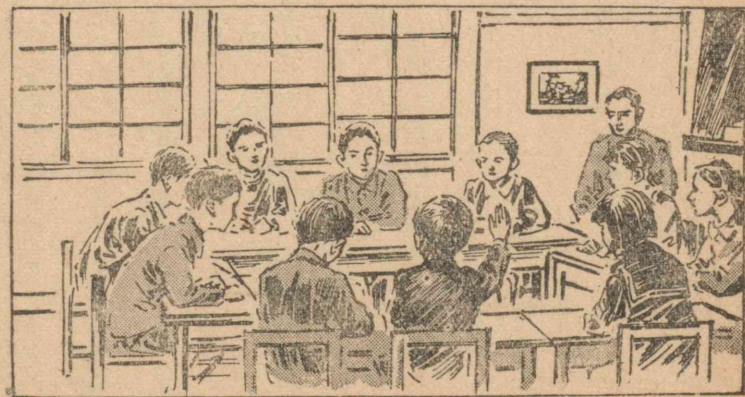
みんなお互に顔を見あわせました。そのとき三郎が立っていいました。

「まどガラスをわるのはぼくたちのはじです。けさの集まりのとき、先生もおっしゃいました。みんなてまどガラスを守るように相談したらどうでしょう。」  
みんなは、手をあげて賛成しました。

## 二 学級の相談会

### 1 まどガラスを守る相談

一日おいて、三郎たちの学級では相談会が開かれました。学級委員をしている三郎は会を進めるかかりになり、とし子は相談にでたことを書きとっておく仕



事をしました。

「きょうは、きれいにはいったまどガラスを、こわさないようにするのはどうしたらよいか、そのことを相談したいと思います。どの学級でも相談してありますから、あしたの学校委員会に、そのきまつたことをしらせることになっています。どしどし考えをのべてください。」  
三郎のことばに、すぐ立って意見をのべたのは、みちよでした。

「運動場で野球をするからです。運動

場では野球をこれからやめるようにしたらよいと思います。」

「野球はみんなが大好きな運動ですから、なんとかしてガラスをわらない工夫をしてやりたいと思います。一ばんいけないのはらんぼうにまどをしめて、ガラスにひびをいれるようなことだと思います。」

みちよの話がまだぜんぶ終るか終わらないうちに大きな声でいったのは勇<sup>いさむ</sup>てした。その声につられるように、教室の中は少しさわがしくなりました。

そのとき先生は、

「みんなは、相談には熱心ですが、さわがないようにじょうずに会を進めることを考えてごらんさい。」  
といわれました。

「友だちの考えをよく聞いてしまつてから、つぎの人が考えをいつたらよいと思ひます。」

「みんながかつてに話しはじめるのをやめて、手をあげて、会を進めるかかりの三郎君がさしたらそれから発言するというようにしたらよいと思ひます。」

「ことばがらんぼうにならないように気をつけたいと思ひます。」

清、和子、道雄とだまつて元氣よく手をあげはつきり答えました。すこしたつと三郎の会の進めかたも前よりじょうずにになりました。なまえをさされるたびに、みんなはきはき答えます。

ガラスがこわれる原因としてはつぎのようなことがあげられました。

○野球のボールがあつたため。

○ガラスまどをらんぼうにあけたため。

○まどぎわで遊んだため。

○たい風などの強風にあつたため。

これをなくすにはどうしたらよいか相談されました。先生は、それを見て一番わ

れたガラスの多かつたのは、たい風によるものだったといわれ  
ました。

「たい風では、しかたがないということになりかけたとき、順  
一は、

「たい風のときでも、もつとぼくたちが気をつければ、ガラス  
の損害を少なくすることができたと思います。ぼくたちが暴  
風警報ふうけいほうを聞いてみんな急いで帰ったあと、ガラスまどの戸じ  
まりがよくなかったところがかなりあつたそうです。ことに

開きまどは風にあおられて、バタバタと音をたて、そのときにガラスがかなりわれ  
たそうです。ぼくは小使さんから聞きました。」

と前に聞いた話を思い出していました。しかたがないと思われることでさえ、気を  
つけば、損害が少なくなるのだと知って、進たちはほかの相談も熱心にしました。

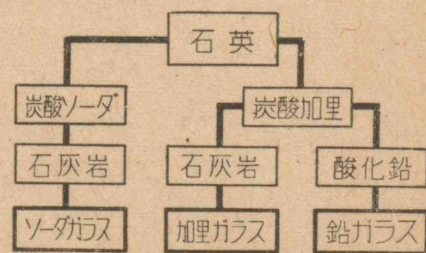
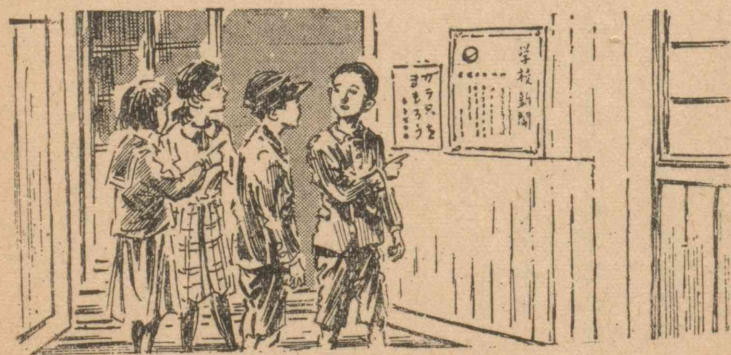
一枚のガラスも、たくさんの人の手がかかつて作られたも  
のです。

ガラスまどをらんぼうにあけたてすることや、まどぎわ  
で遊ぶことなどは、さつそくやめるようにきめました。野  
球については、みんながいろいろな考えを話しました。

「野球はぼくたちのいちばんすきな運動ですから、やめて  
しまったのではつまりません。」

「でも、それではやっぱりまどガラスはこれからもかわれ  
る心配があります。キャッチボールだけにしたらどうで  
しょう。」

「キャッチボールでも、ボールがそれてガラスがわるるか  
もしれません。教室へ向けられないように、まどガラスにそ





つてなげるだけにしたらどうでしょう。」  
そのとき、野球ずきの進がいました。  
「ぼくは、やっぱり野球をやりたいです。家の近くにもちょうどよい広場がないし、道ではなおあぶないから、学校の運動場がいちばんいいのです。ガラスまどにかなあみをはったらどうですか。」

それがいいといったものもありました。  
「ガラスまどはたくさんあるから、かなあみをつけるのは、たいへんだと思います。いまのかなあみのことから思いついたのですが、ぼくたちの学校にもバックネットがあつたらよいと思います。」

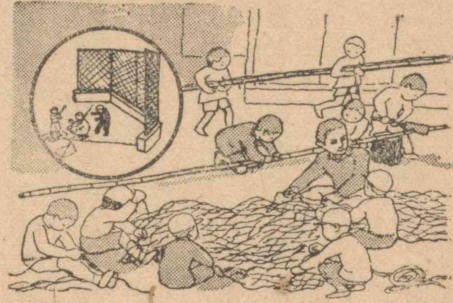
ます。」

そういったのは順一です。この考えに思わず手を打った人もいました。会を進めていた三郎は、みんなの考えを聞きました。みんな賛成でした。バックネットは六年生の人といっしょに作れば、みんなの力でできるだろうということになりました。

バックネットができるまでは、キャッチボールだけということになりました。また野球ばかりでなく、ドッジボールやバスケットボールなどのいろいろな遊びもしようと話していました。それに運動場いっばいにひろがつてキャッチボールをしていると、一年生や二年生、それに女の子などは安心して遊べないから、まどからはなれたところを使うということもきめました。

先生は、いちばんおしまいに、

「きょうのみなさんの相談会には、まどガラス守もり、そうしてみんなでつごうのよいように運動場を使おうという、熱心なようすが見えました。とくに、私は、こう



いうみんなの問題が、おたがいの力によって、だんだんにかたづいていくことをうれしく思います。みんなの力で、学校はきつと明かるく、気持よくなつていくでしょう。会の進めかたもじょうずになりました。」

## 2 バックネット作り

三郎たちの学級で相談したことは、あくる日の学校委員会で報告されました。

バックネットがあつたらという考えは、六年生の方からもでていたので、それがよいだろうということにきまりました。バックネットを作ることにについては、つぎのような考えができました。

○四年生以上の組から体育委員を出すこと。

○じょうぶな細いつなをだしてもらうこと。

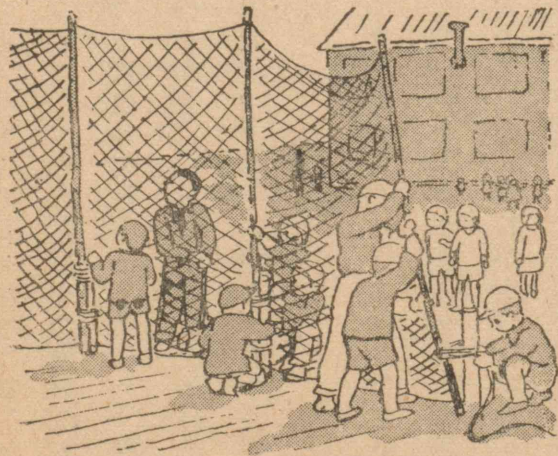
○工作の先生にお願いしてあみかたを教えてくださいいただくこと。

○柱は竹にすること。

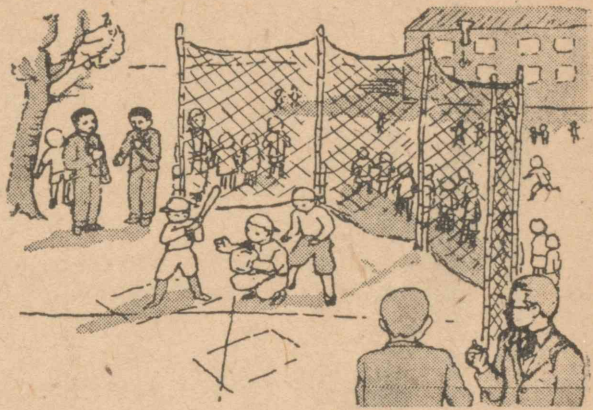
○たてる所は、一年生や二年生の遊びのじやまにならぬように工夫し、安全なところにする  
こと。

二日ほどして、みんなが持ちよつた材料の細いつなは、いろいろな質のものではあつたがかなりたくさん集まりました。工作の大木先生を中心  
に委員が集まつて、日あたりのよい物置の前でバックネット作りがはじまりました。

進や三郎のおとうさんも、手つだいにきてくれ







ました。小使のおじさんもなかまにはいりました。大木先生に教えていただいて、つなの結びかたをおぼえると、みんなはむちゆうになつて仕事をしました。放課後のバックネット作りが五、六日つづいた土曜日の午後、みんなの苦勞したバックネットがとうとうできあがりました。

みんなは、新しくできあがつたバックネットを太い竹を柱にして立てました。何日ぶりかて、みんなは思ふぞんぶんバットをふりました。はねかえつたボールがネットにあたるとわあつと声をあげました。ネットのあみ目の大きさにはずいぶんこまかいところもありました。ネットのうしろで見ている人もいました。

「これはいいのができた。まったく君たちが力をあわせたたまものだ。学校のたからだね。」

校長先生も出てこられて、ネットを見上げてそういわれました。三郎や進たちは、みんなが力をあわせて、バックネットをひとつ作ったというだけで、こんなにも学校が楽しくなるものかと思いました。ガラスももう安心です。なんだか運動場がいきいきとしたように思われました。

### 3 討論会

みんなの話しあいで、運動場のきまりがよくまもられるようになったので、三郎たちは学級のきまりも、もつとよくしていきたいと思いました。

つぎの日、三郎たちはそのことを話しあうために討論会をしました。

みんなはいつものように、三郎ととし子が会を進めてくれるものと思っていました。そのとき、三郎が、

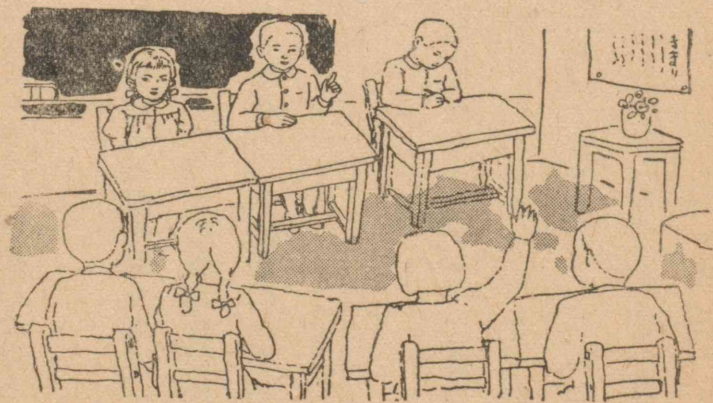
「今まで、委員だけがきまつて議長の仕事をしていましたが、これからは議長はえらんできめた方がよいと思います。」

というと、みちよも、

「その方がよいと思います。相談をまとめる役ですから、いつも同じ人にきめてしまわないで、その問題について熱心な人になつてもらつた方がよいと思います。」

といったので、みんなもそれに賛成しました。先生も、

「今のように、自分の正しいと思う考えを、えんりよしないで、はつきりいうのがいいですね。」  
と元氣をつけてくれました。



「議長の仕事はわかりにくいね。」と誰かがいったので、みんなはそのことについてかっぱつに自分の考えをいいました。

「議長はみんなの考えをまとめていく役目があると思います。」

「問題が出されたら、それをとりあげて、みんなにはかつて、相談してもらつてもやるのだと思います。」

「みんなの考えをまとめるとき、かたよらないように、公平にきめていくことが大切だと思つたわ。」

「議長は、みんなの相談をきめるとき、手をあげさせるとか、紙に書かせるかして、はつきりきめる仕事もやります。」

みんなの意見がかっぱつにのべられたあとで、先生は、

「みなさんの話しあいで、議長のやくめはだいたいわかったと思いますが、議長の役目は大へん大切な役目ですから、もう少しくわしくお話ししましょう。みなさんはき

よりの討論会もいつものように三郎君とし子さんが会を進めてくれると思つていましたね。みなさんだけではありません。日本人は今までは、ひとりの人のさしずでうごいてきたのです。これからの日本人はそれではいけません。みなさんが気がついたように、討論会の問題についてねっしんで、よくみんなの考えをまとめていける人が議長にえらばれるようにするのがよいのです。」

とおっしゃつて、議長のやくめをまとめて黒板につぎのようにお書きになりました。

- 一、議長は会の意見をまとめるやくめで、自分の意見をおしつけてはならないこと。
- 二、議長は一つの問題について、みんなが自分の考えをのべることができるようにして、何人かの人の意見で決議してはならないこと。
- 三、議長は意見の対立がある時は、両方の考えをかわるがわる発言させ、みんなの判断で正しいという方をとるようにすること。

- 四、議長は、意見が対立してどうしても決定しない時は、みんなの意見で多数決できめてよい時は多数決で、更に研究の必要のある時はつぎの会まで決議をのばすようにすること。

- 五、議長は、討論会が横道にそれたり、感情に走つたりしないように注意すること。

黒板を熱心に見つめていたみんなは、議長はほんとうに大切なやくめだということ強く感じました。

そのとき和子は、

「そうすると議長の仕事はたいへんですね。議長をたすけたり、議長のかわりになつたりする人があつたらいいと思います。」

といいました。みんなも賛成しました。

「それでは、今までとし子さんのやつていたような、相談したことを書いておく仕事

は誰がやるのですか。」

「そういう仕事をする記録係は、別にあつた方がよいと思います。」

そこで、記録係もおかれることになりました。

「町の議会みたいだね。ぼく、おとうさんに話をきいたことがあるけれど、町の議会もおなじようです。」

そういつたのは、おとうさんが町会議員をしている道雄でした。

「新聞の写真でみた国会にもっていますよ。」

みちよがそういつたのでみんなもそんな気がしました。議長には順一、副議長には和子がきまりました。記録係は字がじょうずではやく書ける道雄がなりました。

まず問題になつたのは学級日誌のことです。つけおとしたり、らんぼうに書く人があるということです。議長になつた順一は、それについてみんなの考えを聞きました。当番の仕事がはっきりしていないからだということになり、そのきまりを相談してま

とめました。

つぎに問題になつたのは、学級文庫の本がらんぼうにおかれたり、本の表紙がとれたりしているのをどうしたらよいかということでした。このごろは、学級文庫もみんながざつしや本を持ちよつたのでだんだん多くなりました。それでこのせわをするために図書委員をつくつた方がよいということになりました。

「このあいだバックネットをつくるときに、体育委員がきまつて、あれからは運動のことを話しあつたり、衛生室とれんらくして、いろいろな仕事をしたりしているの  
で、たいへんよいと思います。こんど図書委員ができれば学級文庫も今までよりも  
つとよくなると思います。」

「教室をきれいにせいとんしたり、かざつたりするかかりもあつた方がいし、その  
ほかにもかかりを作つて、よい学級にしていきたいと思います。」

つぎつぎに出るかっぱつな意見に、先生もうれしそうにみんなの方を見えています。

みんなのいうことをまとめている順一や和子たちの目も、楽しい学級にするための相談で希望にかがやいています。

### 三 役所のはたらき

#### 1 調べる計画

学校のガラスを入れたり、屋根を直したりするとき、その世話をしてくれたのは町役場の係の人でした。町に橋をかけたたり、消防自動車を買入れたりするのも、きりゆう寄留や出生をあつかうのも役場でした。役場がどんな仕事をしているのか、一度行ってみたくわしく研究してみたいというのは、前からのみんなの考えてした。

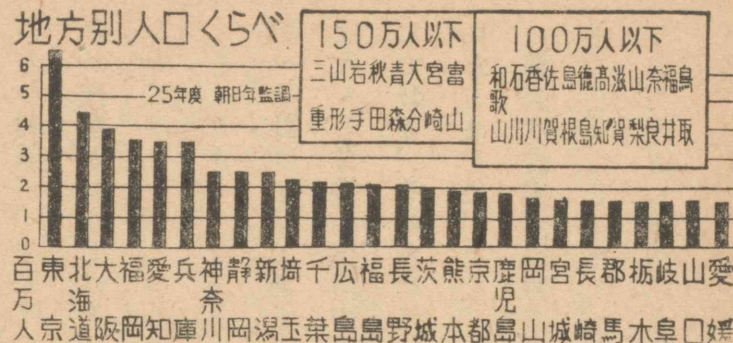
ところが、みんな楽しんで学級にする相談会をつづけているうちに、町の役場と議



会との関係が、少しずつわかってくるように思えました。バックネットを作った委員会が役場とおなじはたらきをし、学級や学校の相談会が議会とおなじやくめをしているのではないのでしょうか。

そこできょうは、みんなの学校をよりよくするために、町の役場と議会について、調べる計画を話しあうことになりました。いろいろ話しあっているうちに、町の役場は人々の日常生活のすべての部分と深くつながっていて、さまざま実際の仕事をしており、そのために仕事をするに十分な仕組みを持つことが大切であるということになりました。

議会は役場が実際の仕事をするのに対して、それらの仕事をその時々必要にあわせてじゅんじょだて、費用や方法をきめるやくめを持っているということでした。ところがこう話しあっていると、もう一つの大ぜいの人々のためのはたらきが考えられました。それはけいさつでした。けいさつは人々がきまりに従ってくらしていく時、そ



れを乱すような者をとりしまり  
ます。学校や、学級の相談会に  
は、議会のようにはたらきと、  
けいさつにちかひやくめとがあ  
ることに気がつきました。  
話しあいにしたがつて、研究  
のはんが三つできました。

(イ) 議会のやくめ  
………三郎のはん

(ロ) 町役場のしごと  
………和子のはん

(ハ) けいさつのはたらき  
………進のはん

国土計画の区分と									
地方中心都市									
(地区)					(都市)				
九	四	中	近	東	関	西	東	南	北
州	国	国	畿	海	東	部	部	部	部
福	高	広	大	名	東	金	新	仙	弘
岡	松	島	阪	古	京	沢	湯	台	前
熊	本			屋	京	沢	湯	台	前
本				屋	京	沢	湯	台	前
				屋	京	沢	湯	台	前
				屋	京	沢	湯	台	前
				屋	京	沢	湯	台	前
				屋	京	沢	湯	台	前

国会のことも話に出ましたが、これはむずかしいので、この町から出ている国会議員の人からあとでみんなでお話をきくことにしました。道雄のおとうさんは町の議会や町役場の見学には、とくべつ心配してくださることになりました。けいさつしよの見学は、進ととし子が行ってれんらくしてくるようになりました。進のよく知っている交通係のけいさつ官や、学校にきて紙芝居をしてくれたことのあるやさしい婦人けいさつ官もいたので、すっかりれんらくもできました。

2 役所のいろいろなはたらき

三郎や和子や進たちは、それぞれの見学や研究を終つて、そのことを文に書いたり表に書いたりしています。

つぎの文は、三郎たちのはんで書いた見学の文です。

(1) 町の議会のやくめ

三郎のはん

ぼくたちは、前に町の議会できめることが、ぼくたちの学校にも深いかんけいがあるということを聞きました。それで町議会はどんなやくめをもつて、どんな仕事をしているかを知りたいと思いました。

町役場の前に集まったぼくたちは、お話をしてくださることになっている道雄君のおとうさんの上田さんに案内されて、議場へはいりました。会議は開かれていなかった。中はがらんとしていました。きよ年、たてなおしたばかりだということこの議場は、どこを見てもさっぱりとしてきれいです。正面に、大きな机があつてそれが議長席、その右にも左にも机がならんでいました。それに向かいあつて、半円をかくようにたくさん議員席がありました。

「きよ年はみなさんが子どもの議員になつて、席についてごらんさい。」

上田さんのことばに、ぼくたちは大喜びで思い思いの席につきました。みんなにす

すめられて、順一君は議長席に、みちよさんは副議長の席につきました。町長の席には三郎君、速記者席には道雄君とみよ子さんがつきました。こんなところで学級の相談会をしたらどんなにすばらしいだろうとぼくたちは思いました。

「おじさん、ここではどんなことを相談するのですか。」

一番前の、五番というふだのある席にいた一郎君がたずねると、

「おじさんではない、議長だよ。そういうときには『議長、五番』というようにいうのだね。」

と、上田さんがにこにこしていったので、みんなすつかり笑つてしまいました。そしてそれでは、といつてお話をはじめました。

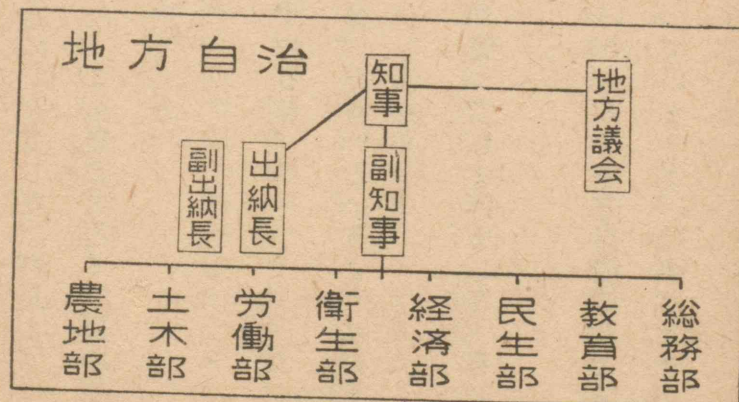
「私たちのすんでいる町とか、村とか、あるいは市とかいうものを地方自治体とよびます。このような地方自治体の仕事はなかなかこみいでいますが、仕事は大きく二つにわかれています。それは、ものごとをきめる仕事と、きめたことを実際にや

つていく仕事とです。はじめのものをきめる仕事、この議会のやくめで、それを実際に行っていくことが、役所の仕事なのです。

それですから、ここでは、町の人々の代表としてえらばれた議員の人たちが、町で使う費用や規則などだいなことがらを相談するのです。

こういつてから、議員の選挙が四年ごとに行われることや、毎年六回以上はきまって開かれる「定例会」のことや、きゆうに必要なつて集まる「臨時会」のことなども説明されました。こういうことは、市も町も村もだいたい同じだそうです。

ぼくたちは、気持のよいすにこしかけて、いつも



よりきんちようしてお話をききました。

「このごろどんなことを相談されたのですか。」

みちよさんが聞きました。

「そうですね。もうすこしたちますが三か月ほど前、みなさんに一番えんの深い学校のことで臨時会を開きました。あのはげしかったたい風で、小学校や中学校などの大きなたてものが、だいぶ損害を受けました。屋根のはがされたところ、ガラスのわれたところなど町の学校ぜんたいでは、ずいぶんの損害でしたから、それをなおすための費用について相談したのです。

町でも、みなさんの学校の方にたくさんのおかねをまわしたいのですが、いろいろな仕事があるので、思うようにいきません。四月からの新しい学期には、学校で使ういろいろな道具も、もつと買えるように、今また相談をはじめるところです。」



「この間、学校のガラスを町役場の手配でいれてくれました。みんなガラスがはいったので、たいへんよろこんでいます。」  
と、勇がいうと、

「そうですか。それはよかったですね。」  
と、上田さんはにこにこして答えました。上田さんはことばをついで、

「この間、学校でバックネットをみなさんでつくったそうですね。校長先生から聞いて感心していますよ。みなさんもいろいろ工夫して、ぜひバックネットを作ったときのようにやってください。私たちもやはり工夫して、できるだけのことをしようとしています。しかし町の費用だけではたりないものもあるので、県庁や政府から費用を助けてもらうものもあります。いまこの町では、夏までに運動場とプールをつくろうと計画しています。それでこの費用を助けてもらうように県の議会あてに願いを出してあります。」

と話してくれました。そして、

「町や県や政府は、そういうおかねをどこから手に入れているのか  
みなさんはわかっているのでしょうか。」

そういつて、みんなを見わたしました。私たちはだまっしてしまいました。

「それは私たちの家から出している税金でやっているのだと思います。」

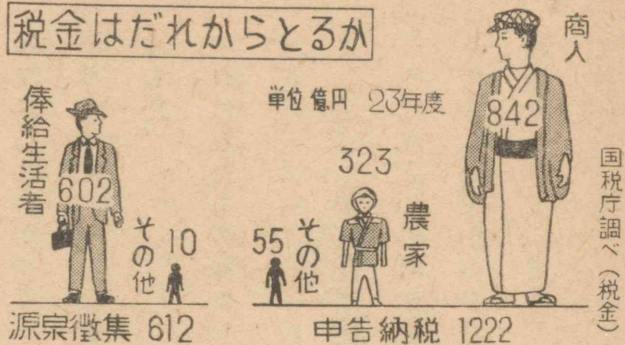
よし子さんが速記者席から答えたので、みんな笑いだしました。

「そうです。この町にも税務所があつて、地租とか、所得税とかよばれるの国税金をみなさんの家からおさめてもらっています。また県でも、町でもいろいろなものに税金をかけています。これは、みんなそれぞれ国や、府県、市町村の費用になるのです。」

昭和	5年	10年	21年	22年
国税	835	926	54,983	134,321
地方税	612	637	1,183	87,344
合計	1,477	1,563	56,171	221,665

単位百万円

税金はだれからとるか



お話が終ったとき、ふりむくと、うしろの傍聴席ほうちようせきには和子さんたちのほんについていかれた先生が、私たちの方を見ていられました。

傍聴席は、町の人たちがいつでもその会議のもようをそこで聞くことができるようにつくられているものです。私たちはそれを見て、町の議会は私たち町のもの、議会だということを強く感じました。

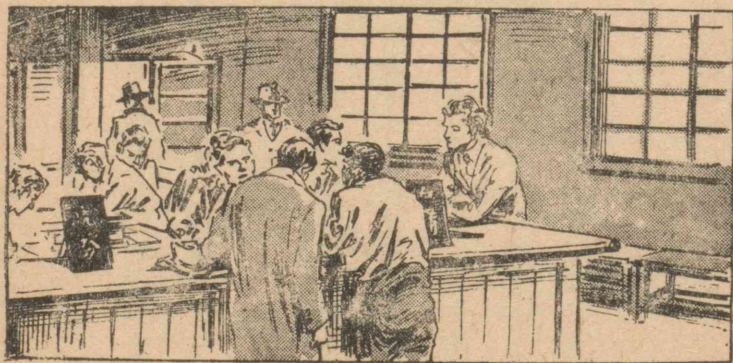
よくするためにはりつばな議員を町の議会に送ることが大切です。また町の人々の考えをこの議会の相談の上にあらわすようにすることが町をよくしていくことだと思

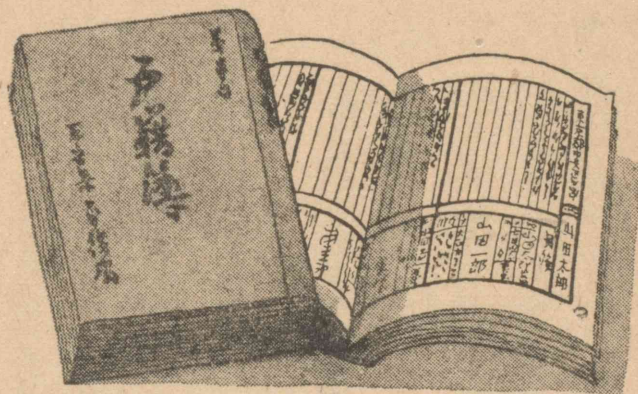
ました。

(ロ) 町の役場のしごと 和子のはん

つぎの文は、和子のはんが町の役場を見学して、そのしごとについて調べたり、お話をきいたりしたことをまとめたものです。

町の役場は私たちの学校のせわをしていています。このあいだ、教室のまどガラスを入れかえるのに、役場からかかりの人が見に来てくれました。そのあとで、いぜんからこわれていた水道のじゃ口をなおしてくれたのも、やはり役場だということを知りました。いま、学校の前の道で下水工事をしているのも、そうだということ





です。つなをはって、片側通行の注意の書いてあるたてふだにも町役場土木課という字が書いてあります。私たちは、役場の仕事をもつとよく知りたいと思いましたが。先生といっしょに町の役場へ行つて、仕事のようすを見たり、お話を聞いたりしてきました。

役場のまど口には、いろいろのかがりがあつて、私たちはびっくりしました。一ばんおおぜい人がきていたのは、戸籍がかりのところでした。あき子さんが、この町へうつってきたとき、寄留届をだしたというのはきつとこのところだと思いました。赤ちゃんがうまれて、出生届を出しにきている人もいました。

「こどもが生まれると、二週間以内にこの役場にある戸

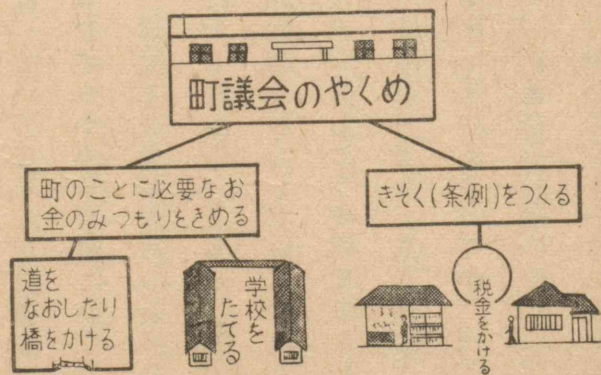
籍簿というちょうめんのにせられるのです。だから

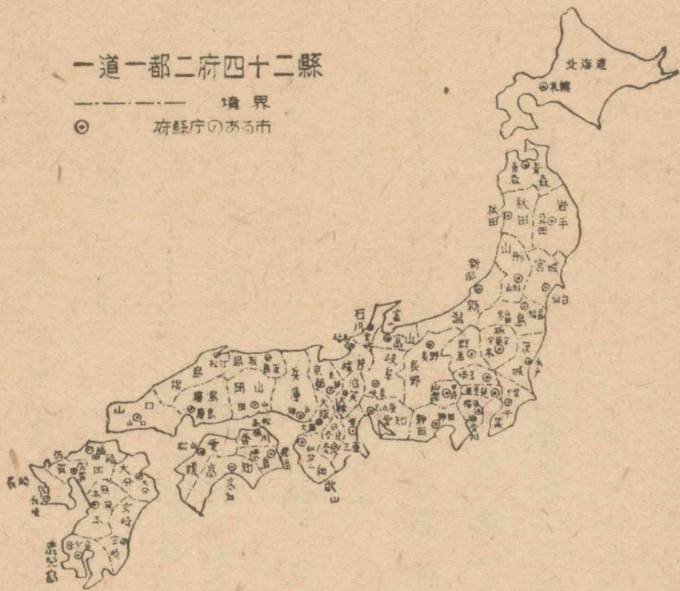
みなさんのなまえや生まれた日などは、みなさんのおうちの人といっしょに全部ここにありますよ。」

かかりの人はそういつて、あつい戸籍簿をひろげて見せてくれました。たくさんある戸籍簿は、全部町の番地じゆんにきちんとせいりされていました。

となりには税金をあつかうまど口がありました。国でいりようなおかねを税金として、集めているように、町でも学校の費用や道や公園をなおしたりする費用にあてるために、税金を集めているのだそうです。自

転車や荷車や飼犬などにも税金がかかっているという話を聞いて、めずらしく思いました。うちにきていたのと同じような徴税令書の紙が、机の上に高くつんであつ





きました。大きな都会にあるような  
 野球場や、プールもできたらどんな  
 にいいだろうと思いました。  
 あとで、助役さんからお話をうか  
 がつたところによると、ここで仕事  
 をしている役所の人々は、ふつう公  
 務員とよばれ、町長さんを助け、町  
 の人々のための仕事を受けもってい  
 るのだそうです。戸籍の仕事でも、  
 税金のことでも、配給のことでも町  
 の人々のくらしにえんの深い仕事を  
 しているので、しんせつに、早くす

## 徴税令書

納付書		徴収清通知書		徴収證書	
納税人(個人)	住所	納税人(個人)	住所	納税人(個人)	住所
納税種別	納税額	納税種別	納税額	納税種別	納税額
納付の目的		納付の目的		納付の目的	
納付年月		納付年月		納付年月	

東京市 中野区 日小橋  
 空町三丁目三番地  
 松井大助 殿

て、その間でかかりの人たちがいそがしそうにちようめん  
 を開いたり、ペンを動かしたりしていました。  
 学級にガラスを入れるときに、ついてこられた役場のお  
 じさんも、となりの学校の仕事をするかかりの席にいて、  
 私たちをむかえてくれました。学校で映画とお話の会があ  
 ったとき、いっしょにきていたおじさんもいました。この  
 かかりの人たちは、町の図書館のおせわもしているのだと  
 いうこともききました。町の人々のけんこうや衛生のこと  
 を受けもっているかかりもありました。また、この町では、  
 学校のほかにけいさつの費用も出しているそうです。病院  
 や保養所もやっているそうで、いまある公園のほかに、  
 町の人々のための運動場も作る計画があるということを知

るように気をつけているということでした。市長や村長は、それぞれの市、町、村のこのようなたくさんのしごとをまとめておこなう人で、そこに住む人たちから選挙によつてきめられています。

私たちは、町の人たちが、みんな町長さんを選んだのだと聞いて、なんだかしたしい人に思いました。しかし、また、町のことがうまくいくかどうかは、町長さんをえらんだ町の人たちのせきになるのだと考えました。

助役さんはまた、都道府県などの知事も町長さんと同じように、いまではみんなから、ちよくせつ選ばれるようになってきたといわれました。東京都、北海道をはじめ府や県は、もとはただ国の仕事を地方ごとにおこなつていくためにつくられたもので知事もみな国の官吏であつて、政府できめていました。ど

全国の市町村の数  
村 8480 町 1,811 市 214



(昭22.10.1調べ) 内閣統計局調査による

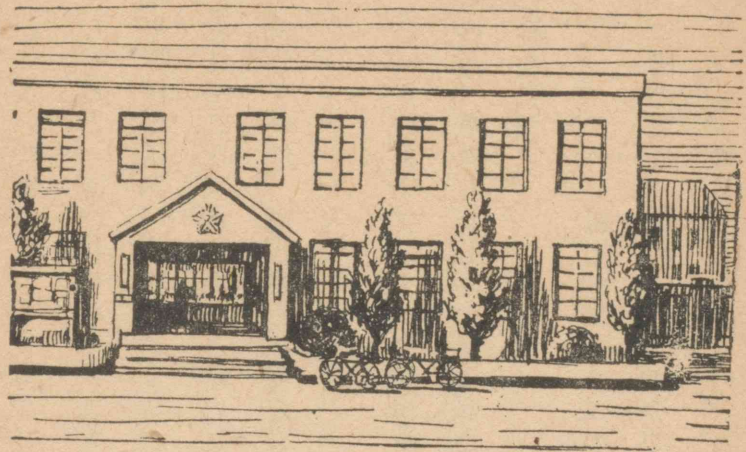
ういう人が知事になってくるかさえも、県の人には誰も知っていませんでした。それにくらべると、国の仕事のしかたもずいぶん進んだものだと思います。けれどもまた、市や町村のばあいと同じように、一人一人のせきにながそれぞれ重くなつてきたことを忘れてはならないのだと思いました。

おしまいに、助役さんは県の教育委員会のことについても説明してくださいました。

あいさつをすまして、町役場を出るとき、はじめはただ大きく見えた町役場のたてものが、急にしたしみのある私たちの町役場に思われて、みんな何度もふりかえつてみました。

(ハ) 新しいけいさつのはたらき 進のはん

つぎの文は、新しいけいさつについてしよ長さんからお話を聞くため、進たちがけいさつしよを見学したときのことをまとめたものです。



ぼくたちは、いろいろ役所のはたらきについて考えたとき、世の中を住みよく平和にするために、けいさつが大きなはたらきをしていることを話しあいました。

こんどけいさつしょに行つて、しょ長さんのお話をきいて、そのことが、よくわかつたように思えます。けいさつしょのげんかんをはいると、せいふくをきたけいさつ官が私たちの方を見て、にこにこむかえてくれましたので、きゆうに気がらくになつたように思いました。

前にれんらくしてあつたので、しょ長さんも私たちをまつていてくださいました。

「けいさつは、どんなことをするところだと思つていますか。」

ぼくたちが、席につくとしょ長さんは、私たちにそう聞かれました。

「交通せいをします。」

「悪いことをした人をつかまえます。」

「戸籍しらべをしたり、夜なども町をまわつて歩きます。」

「もうありませんか。」と、しょ長さんがいわれたとき、誰かが、

「交通の紙芝居をもつて、学校にきてくれます。」

といったので、しょ長さんも笑いながら、つぎのようにおっしゃいました。

「そうです。みなさんのいったことをみんなまとめると、だいたいけいさつの仕事になりますね。もう少しくわしく話しますと——」

こういわれてから、つぎのようにお話になりました。

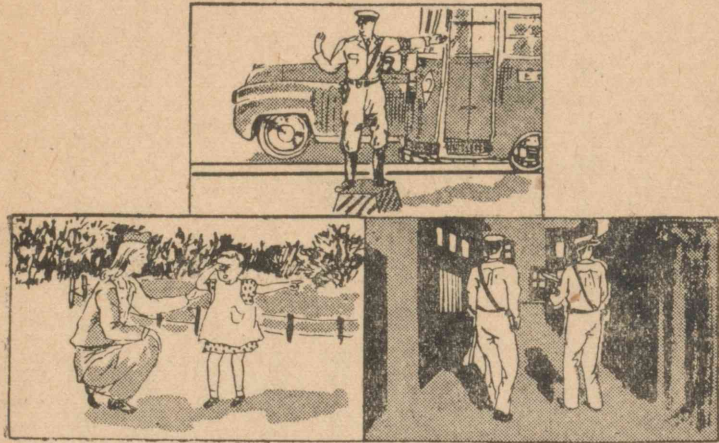
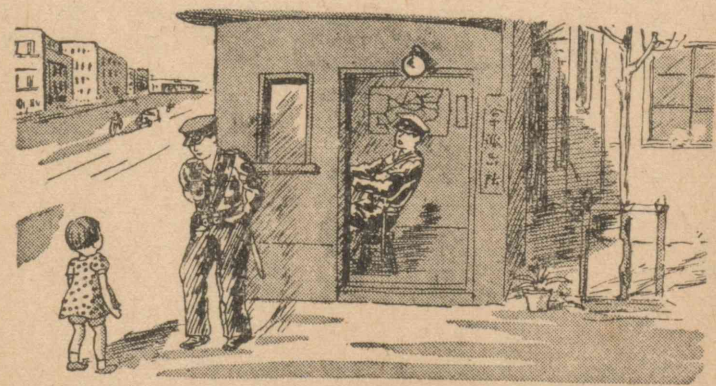
「けいさつのしごとは、世の中の人々の生命や財産をまもつて、人々が安心してくら

していけるようにすることが第一のめあてです。そのため、悪いことをした犯人をつかまえることもします。またそういう悪い人が出ないように予防することもします。よく町をまわって歩くと、戸じまりがしてなかったり、大切なものを外にだしたままになっている家があります。派出所はしゅつ所のけいさつ官はこういうのをまわっていつて見つけると、そういう家にはすぐ注意するようにしています。」

「犯人はんじんはどうしてつかまえるのですか。」

信一は、まちきれないようなようすで聞きました。

「むかしは犯人を見つけたのに、あやしいと思う人をつれてきて、その人に自分がやったということを



いわせようとしたものです。ですから、いわないと、おどしたり、苦しめたりしたこともあったようすで、苦しまぎれに、ないことまでいつて、つみになる人もあつたといわれています。明治になつてから、こういう方法はやめられ、自分でいわなくても、ほかにたしかなしょうこがあれば、犯人ときめることができるようになりました。ところが、しろうこを集めるのはむずかしいので、やはりむりにいわせようとして長くけいさつにとめておくということもありました。

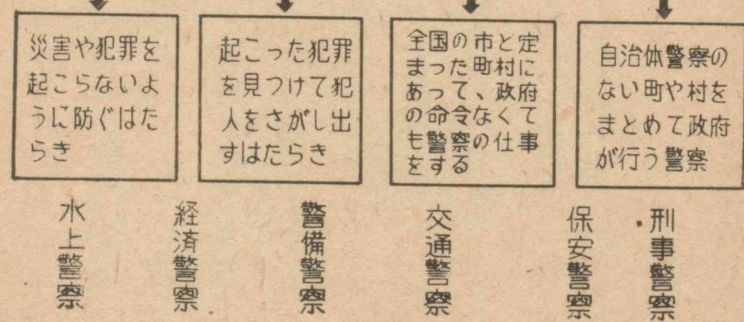
新しい憲法けんぽうになつて、今では、ただあやしいか

らといって、その人を長くけいさつにとめておいたり、むりにいわせようとするのがなくなったので、しょうこを集めるということの方にずっと力がいれられるようになりしました。調べ方が科学的になったといえましょう。」

こういわれて、一番多く使われている指紋しもんの話をしてくださいました。また火のためにこげてふつうでは見えなくなった紙の字でも、特別な光を使うと字をはっきり読むことができることも聞きました。写真やラジオが犯人の調べに利用されていることや、このごろはうそ発見機が研究されていることなどもお話になりました。

ぼくたちは、早く全国のけいさつがそのようによくなってきたら、きつと悪いことをする人も少なくなるだろう

行政警察と司法警察      自治体警察と国家地方警察



目明し(江戸時代)



けいら(明治時代)



巡査

(大正時代)



と思いました。

かかりのこともうかがうと、いろいろあるけれども、といわれてから、私たちが知っている交通がかりのことや、悪いことの起こらないように気をつける防犯ぼうはんがかり、犯人をつかまえるそうさがかり、品物の動きやねだんのことをとりしめる経済けいざいがかりなどについて話されました。おしまい町の子供が悪いことをしないように、そのせわをしておられるという少年がかりの話も聞きました。

「けいさつは、いろいろなことをしているんですね。」

と、ひろ子さんがいうと、しょ長さんは、

「そうですね。しかし、これでも消防の仕事がけいさつ

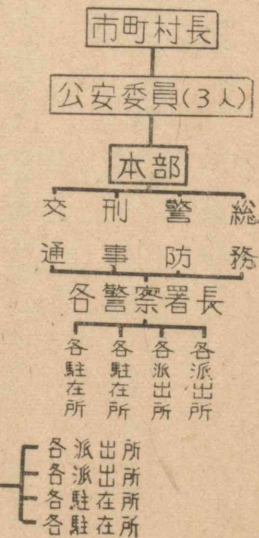


の手をはなれたり、また衛生の仕事が保けん所の方に移ったりして、だいぶ少なくなったのです。それから、新しいけいさつのしごとは、前にお話したようなことだけにあって、それをしつかりやるということになってきました。」

と、いつてから、新しいけいさつのしごみについて、**国家地方けいさつと自治体けいさつ**の二つがあることなどをお話になりました。

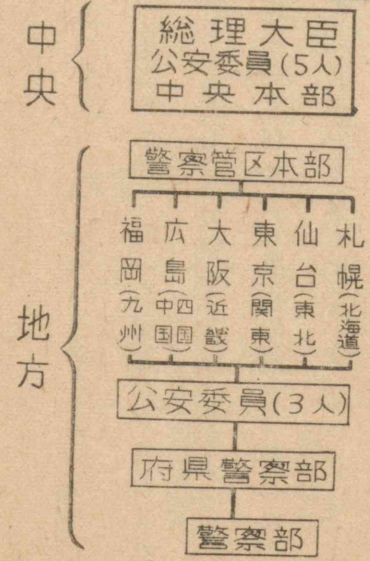
おしまいに、

**地方自治警察**

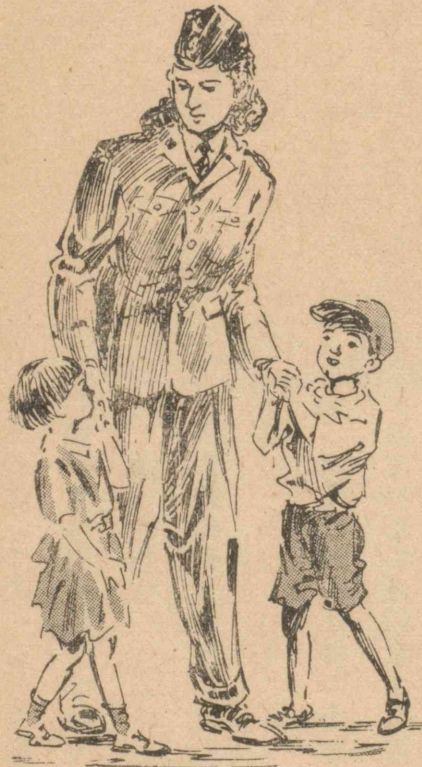


警察大学 ↑ 警察学校

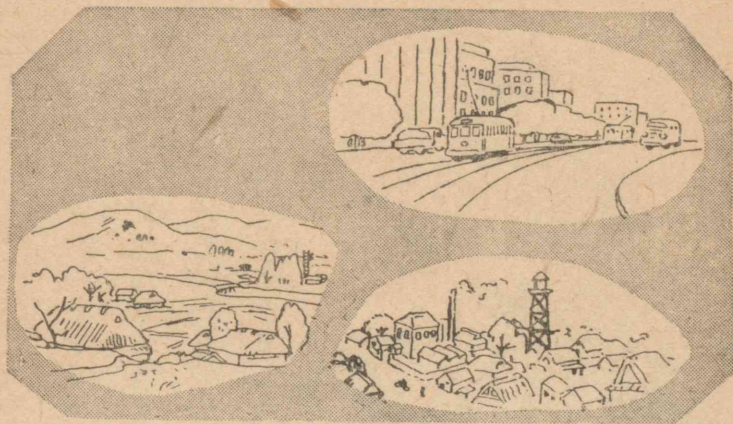
**国家警察**



「こういしくみになって、この町も、自治体けいさつになっていきます。新しいけいさつはもつと町のみなさんと手を取りあって、町の犯罪をなくし、明かるい町、住みよい日本にしていくなことを考え、一しけんめいにやっています。みなさんも、町の人々もこのけいさつのしごに力をかしていただきたいと思います。」



お話をうかがっている間にも、となりのへやで電話のベルがなるのがよく聞こえました。お話をしているしよ長さんのところへも、ときどきしよの人がでてはいりました。ぼくたちは、



そのきりつの正しいのに感心しました。帰りにけいさつしよの中を見せていただきました。

ぼくたちは、けいさつの仕事は世の中を明かるくするために、大きなはたらきをしていることを知りました。

はんの発表が終ったとき、みんなは、自分たちの住んでいる町は、私たちのくらしをよくするために、いろいろな設備をし、さまざまなきまりをつくっているものだと思います。市や村もそうだと思います。国もそうにちがいない。国会の話も、早く聞きたいと思いました。

### 3 国会の話

きょうは、かねてお願いをしてあった国会議員の大野さんから、国会についてのお話がありました。

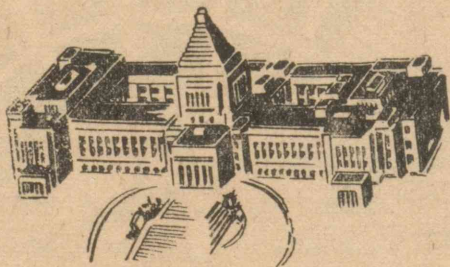
「大野さんはこの町から出ている衆議院議員で、十二月から開かれている国会の常会にずっと出ておいてですから、たいへんおいそがしいからです。きょうは、国会が休みなので、府県や、市町村の政治のもとをつくっている国会のお話を、大野さんからうかがえることは、大へんうれしいことです。」

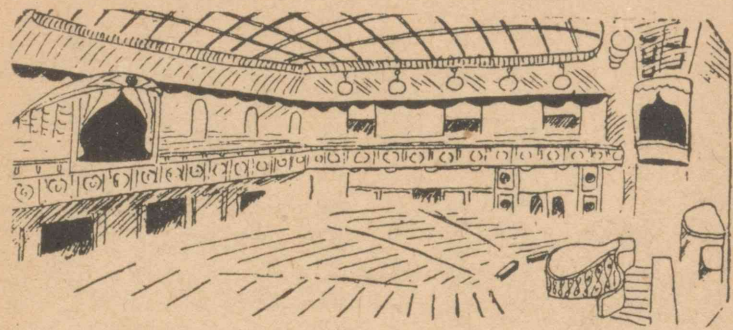
先生はこういって、大野さんをしょうかいされました。大野さんの胸には、議員のきしょうが光っていました。

#### (1) 国会議事堂

「きょうはまず、みなさんを国会議事堂に案内しましょう。」

大野さんは、そういって、議事堂の写真や絵をひろげて、前にはりました。それか





りしているようすが目に見えるようでした。議場は二階から三階までうちぬきになっていて、議席は議場一ぱいにおおぎの形にならんでいるのがわかりました。三郎たちは写真を見て、この前、町役場の議場に行ったときのことを思い出しました。

(ロ) 議員の選挙

「ずいぶん広いですね、何人ぐらいかけられるのですか。」

「議員の数は衆議院は四百六十六人、参議院の方は二百五十人です。議員は国民ぜんたいの中から、国民がえらぶわけです。」

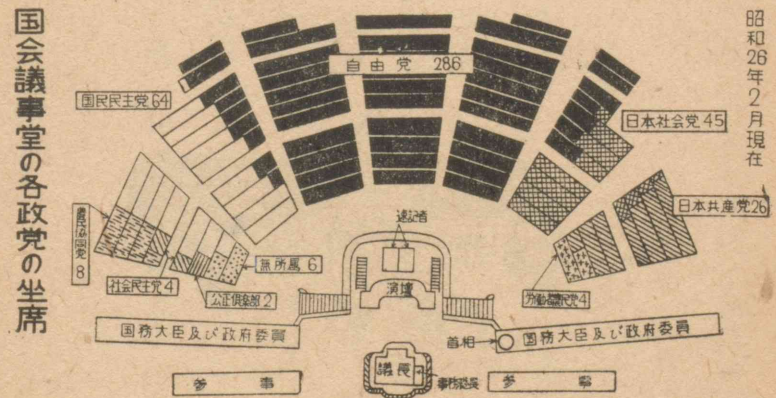
この議員をえらぶために全国をいくつかの選挙区にわけ

ら、このたてものは東京のまん中の高台にあつて、とうの  
高さは東京で一ばん高いことや、遠くからでも、その  
美しい白いすがたが人目をひくことなどを話されまし  
た。

だいたいたてももの向つて左半分は衆議院で、右半分  
は参議院になつてゐるそうです。

傍聴席は、三階にあるのだそうです。

二階にのぼると、この長いろうかには、まっかなじ  
ゆうたんがしいてあつて、議場をはじめとして、議長  
室、副議長室、いろいろな政党的議員のへやなどがある  
そうです。写真を見ながらお話をきいていると、議員や  
新聞記者が、いそがしそうにこのろうかを行つたりきた



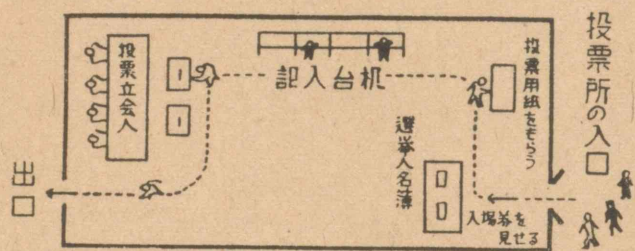
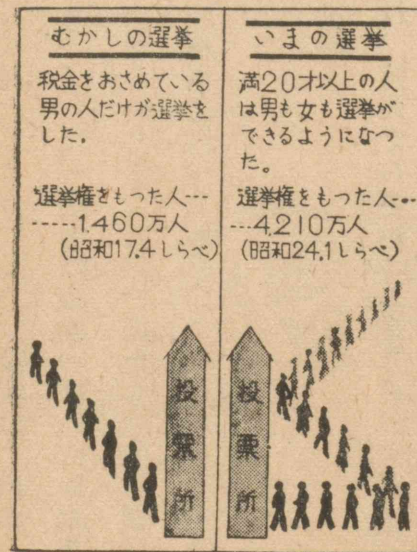
て、この選挙区ごとに議員の数もまわっています。わが国は長い間、男だけしか選挙ができませんでした。今では二十さい以上の人であれば、男も女も選挙をすることができるようになりました。この民主的なやりかたを普通選挙といつて、これは国民の一番だいじなけりです。」

そういつて、大野さんは、みんなを見わたしました。

「去年の冬の総選挙の時に、私たちの学校も投票所になりました。」

「そのとき、ふだんはめつたに外に出ないうちのおばあさんも、投票にはいきました。」

みんながこういうのを大野さんはにこにこしながら聞いていました。



### 投票の順序

「それは大切なことです。国民はぜひ投票に行かなくてはなりません。選挙に行かないのは、国会へおくる自分たちの代表をえらぶ権利をすてることです。これは国民としてはずかしいことです。」

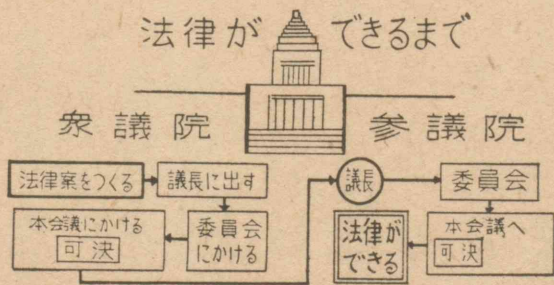
とおっしゃいました。

#### (ハ) 国会のやくめ

「いま、国会ではどんなことを相談しているのですか。」と和子さんがたずねました。大野さんは、今開かれている国会は常会といわれているもので、毎年きまつて開かれ、十二月のはじめから百五十日はつづくこと、必要があればもつとのばされることを説明してから、つぎのようにお話をつづけました。

「こんなに長い間、何を相談しているのかと思うでしょう。

国会の第一の仕事は憲法のきまりにしたがって国の法律をつくることです。税金をきめることでも、交通のとりしまりのきそくをつくることでも、すべて国の法律ですから、これらはみんな国会できめなければなりません。それですから国会はひじょうにたくさんの方々の法律について相談します。よく六・三制とよばれる新しい学校のせいども、国会できめられたのです。また国の予算をきめることも大切な国会のやくめです。今は、予算のことを相談しています。新しい校舎をつくる費用も、一部は国の予算の中にはいっています。水害を防ぐための費用も考えられています。そのほか外国との条約をみとめることなども国会の大切な仕事です。」



衆議院	議員数	参議院
466人	-----	250人
4年(但し解散あり)任期	-----	6年
20歳以上選挙人の年齢	-----	20歳以上
25歳以上選ばれる人の年齢	-----	30歳以上

大野さんはこういつてから、臨時会や特別会のこともお話してくださいました。またことばをつづけて、  
 「それに日本の議会は議事堂の写真にもあつたように、衆議院と参議院とからなっていて、どんな相談でもこの両方を通らなければきめられないことになっています。わざわざ、こんなてすうのかかる方法で相談しているのは、何かわけがあるはずですね。なぜだと思えますか。」  
 大野さんの質問にみんなはいっしょうけんめいに考えました。

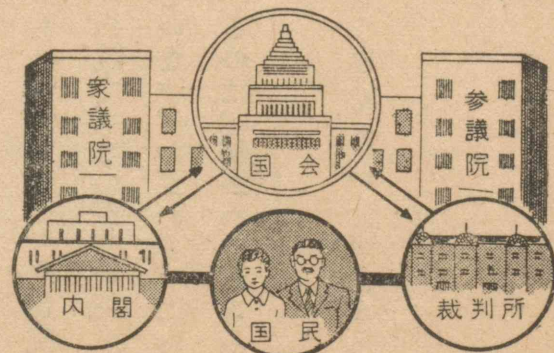
「ていねいに相談するためだと思います。」  
 と、よし子が答えました。

「そうです。よく考えましたね。」大野さんはうれしそうに大きな声でいいました。

「衆議院と参議院は、それぞれ特別なはたらきをもつていますから、両方でよいということになったものならば、まちがいありません。ここできめられることが、よいかわるいかによって、国民の幸福か不幸かがきまるのですからね。」

そういつて、国会のやくめの重いことをお話になりました。

それから、国にはこの国会のほかに、国会できめた法律にしたがつて、じっさいに仕事をしていく内閣ないかくのあることや、法律がじっさいに守られているかどうかをしらべる裁判所はんさいしよのあることなどを、黒板に図を書きながら話されました。



長いお話がすんだあと、三郎たちは、この国会のように自分たちも、組の問題、学校の問題をしんけんに相談してみたいと思いました。

#### 四 みんなの学級

もうすぐ六年生です。昼前、卒業の近い六年生が、アルバムに入れる記念写真をとっていました。三郎はお昼の休み時間に、ほかの委員をさそって自分の考えを話しました。

「今までぼくたちは、六年の人といっしょに、いろいろ学校の仕事をしてきたけれど、きょう六年生が写真をとっているのを見て、とても強く感じたことがある。それは、もう少ししたつと、こんどはぼくたちが先だちになっていろいろな学校の仕事をやっていかなければならないということなのだ。今年の六年生のをうけて、この学校をみんなの学校にしなくてはならないとすると、今のうちにその仕事をよく見習

つておかなければならないし、反省をして、もっとよくしていくことを考える必要があると思うのだが、どうかしら。」

三郎のことばにみんなも同感でした。

「私たちが今まで研究してきたことも、そういうじつさいの仕事に役立つようではなくてはならないと、私も前から思っていたわ。」

よし子がいうと順一も、

「学級の相談会と学校委員会の仕事を、今までのようにうまく連絡させていくことはもちろんだが、バックネットをつくった時のように、その時々が必要に応じて委員会をつくる方法のほかに、ふだんから学級や学校で、自分たちのできる主な仕事を考えておいて、そのかかりをつくっておいたらいいと思うね。」

「つまり、町の議会に対する役場のように、じつさいの仕事をする仕組みがふだんか

らほしいのでしよう。私もそう思うわ。」

「けいさつとはすこし違うけれど、相談の結果や仕事のようにすがみんなによくわかって、正しくきまりよく学校が動くように進めて行く役目も考えなくてわね。」

委員たちはふだんからいろいろ考えていたとみえて、みんな進んで考えをのべました。午後の始業のベルがなったので、それぞれの考えを、もつとくわしくまとめ、学級の相談会にはかることにして別れました。三郎は放課後、先生に委員たちの考えをお話して、このつぎの相談会の議題を「六年生になって、学校がうまく動くようにするにはどうしたらよいか。」ということにしたいと申し出ました。先生はぜひやっつてごらんさいといわれました。

きょうはその相談会の日です。まず司会の三郎が立ちました。

「学校のまどガラスを守るために、野球をやめるということになりかけた時、みんな

の相談でバックネットをつくり、野球がでることになりました。みんなの問題を、みんなが相談し、みんなの力をあわせ一仕事をするということが、どんなに大切か、ぼくたちはしみじみ感じました。こうすることによって、学級も学校もどんどんよくなつていくことでしょう。きょうの相談会はそういう相談と仕事とがうまく組みあつて、ぼくらのくらしをもっとよくなるようにしたいということが開かれました。委員の人から意見が出ますから、それについてじゅうぶん相談してください。」

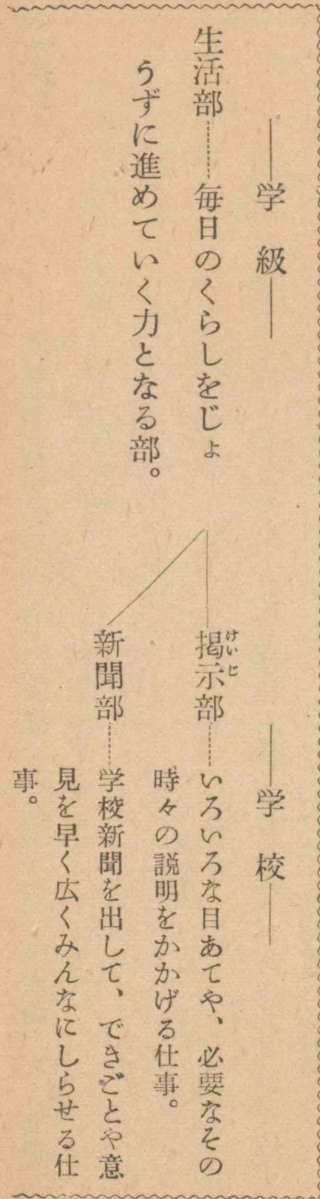
三郎はこういって、二三日前から小黒板に書いてみんなにも考えておいてもらった議案を、もう一度みんなに示しました。そして、

「では、はじめに順一君から、仕事の仕組の必要なことについて発表します。」と、しょうかいしました。順一は、

「ぼくは学級でも学校でも、みんなが自分によくあう仕事をする仕組が必要だと思

います。一人一人はそれぞれちがったよい所をもっているのですから、学級や学校をよくしていくにも、みんなのよい所を生かす仕組があると思うのです。学級に図書委員ができて文庫の世話をしたり、学校の体育委員がバックネットをつくつたように、そのほかのいろいろの仕事をいくつかに分けておいて、たいいていのことはこの仕組でやっていけるようにしたいと考えます。」

といつて、つぎのような表をはって説明しました。





整備部……自分たちの身のまわりをきちんとしていく力となる部。

文化部……心やからだのけんこうを進めて行く力となる部。

園芸部……(動物を飼い、)植物を育てて役立てるような仕事。

工作部……いろいろな材料を集めておいて必要な時、生かして使う工夫をする仕事。

保けん部……保けんという面から清掃などの計画や指導をする仕事。

図書部……文庫の世話をする仕事。

文芸部……劇や映画などの会を計画し、世話をする仕事。

体育部……運動がしやすいように考え、世話をする仕事。

三郎が順一の発表に質問や意見がないか聞きました。書記の道雄が、その記録を書きました。

順一君の発表に対して――

- (1) 学級の部が少なくしてあるのは、人数が少ないのに部をふやすとじゅうぶんな仕事ができないし、まとまらなくなる心配があるからである。
- (2) 四年生以上は学校のどれかの部にはいつて仕事をする。
- (3) その場合、すきな部にはいるが、人数がかたよるといけないから、学級で相談してなるべく同じくらいにわかれ、線で結んである部の人学級の部をつくるようにする。
- (4) 子供銀行の部を作ってはどうか――先生が学校の方で相談してきめる。

「もう意見はありませんか。――なければつぎは学校のきまりをつくって、それをまもっていくことについて、よし子さんの発表です。」  
よし子さんも、作ってきた原稿を持って立ちました。

「大ぜいの人が集まって生活し、仕事をしていくにはどうしてもきまりが必要です。電車に乗る時も、バスに乗る時も、人々はしぜんに列をつくります。先を争うより列を作った方が、早く乗れるからです。歩道がなくて乗り物の多い通りを人々が安全に交通するためには、対面交通の方が安全です。このきそくが国会できまつておこなわれるようになったのも、国民の幸福のためだといえましょう。きそくは人々のためにつくられ、またその人々によって守られねばなりません。私たちも学校を明かるく住みよくするきそくをつくり、それをよく守っていくようにしたいと思います。」

「ぼくたちのきそくはどうやってつくるのですか。」

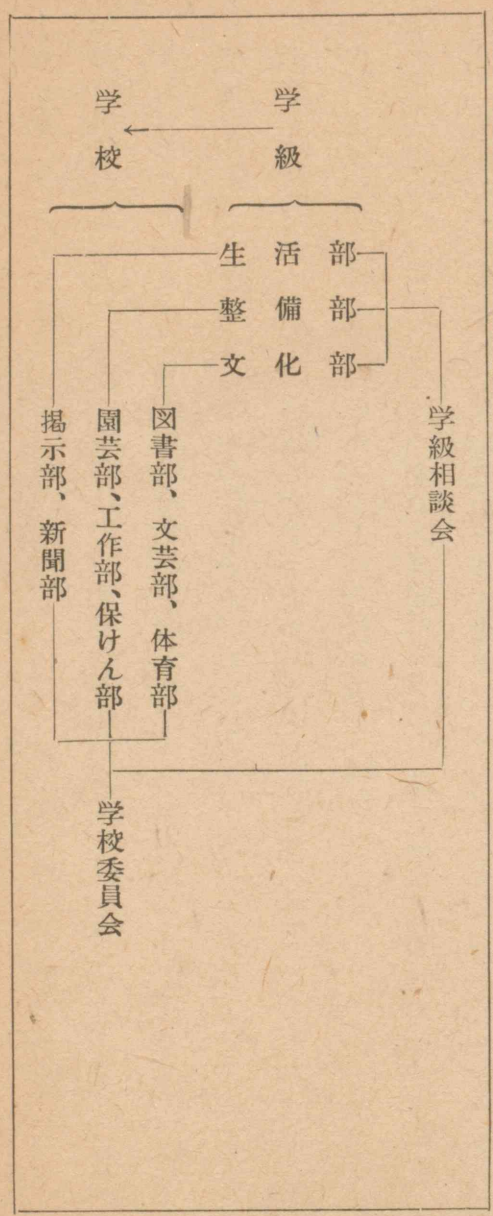
進が質問しました。

「部や学級の相談会で、その仕事をして行く上に必要なきそくの案を考えて、それを学校委員会にかけます。」

と、よし子がこたえました。

「ちょっと待って下さい。学級の三つの部と相談会、学校の八つの部と委員会の四つのかんけいを、もう一度説明してください。」

と質問されたので、よし子は首をかしげてしまいました。三郎が、委員が相談する時間をとつてもいいかとみんなにはかりました。みんなのゆるしを得て、やがてつぎの



ような表に書いて見せました。

「四年以上の人は八つの部にわかれて、きまった時間それぞれの仕事をします。さつきもいったように、学級では似た仕事を合わせて三つになります。そして、三つの部は学級をよりよくするための仕事をふだんしながら、それを進めていくきそくを学級相談会にかけます。学校できまったきそくと学校の部の意見は、それぞれの代表によって、学校委員会にかけるという仕組みです。」

よし子さんが、こんどははつきりと説明しました。先生は、

「よくわかりました。みなさんもわかりますか。」

といわれて、よし子さんの説明を、わかりやすくもう一度お話してくださいました。そして、

「この学級の案は、もう一度よくねり直してこのつぎの学校委員会にかけて、みんなの意見を聞いてもらなさい。」

といわれました。

六年生の卒業も間近くて、何かあわただしいような気がしていましたが、学校委員会に出す案を考えはじめてから、みんなの気持もぐつと違ってきたように思います。新しい学年を、新しい仕組みで進めてみよう。自分たちの力で、明かるいみんなの学校にしようという希望が、心から心へと伝わっていくせいではないでしょうか。

# 学 習 の 手 引

## (一) 問題のさくいん

○楽しい遠足するにはどんなことを考 える必要があるか。	頁	五—三
○学校にはけんこうのためのどんな設備 があるか。	頁	一五—一五
○衛生室はどんな役目をするか。	頁	一六—一六
○運動場はどんな役目をしているか。	頁	三
○学校園はけんこうのためどんな役にた っているか。	頁	一五—一六
○日本人はどんな長所や欠点 <small>ひつてん</small> を持っ ているか。	頁	六
○今までの掃除にはどんなぐあいの悪い 点があるか。	頁	元
○今までの掃除を衛生的にするにはどん な方法があるか。	頁	元—三
○ごみはどうしまつたらよいか。	頁	三
○ガラスをきれいにするにはどうしたら よいか。	頁	三、六—七
○レクリエーションとはどんなことか。	頁	三
○本はどういう目的で読まれるか。	頁	一四—一四
○みんなが楽しく本を読むためにはどう したらよいか。	頁	一五—一五
○日本人のかかりやすい病気にはどんな ものがどのくらいあるだろうか。	頁	四—四
○日本では、どのような事故が多いだろ うか。	頁	四—四
○けんこうを守るためにはどんな点を考 えるか。	頁	四—四

えなくてはならないか。	頁	四—四
○治療と予防のために、ふつうの町には どんな設備があるか。	頁	四—五
○お医者さんの仕事にはどんな種類があ るか。	頁	五—五
○病気にかからないために最も必要なこ とは何か。	頁	五—五
○運動はどうして必要か。	頁	五—六
○緑地運動とはどういうことか。	頁	六—六
○緑地はなぜ大切か。	頁	六—六
○昔の人はどんなレクリエーションを持 っていたか。	頁	六—六
○町の清潔はどのようにしてたもたれて いるか。	頁	六—六
○下水はどう処理するか。	頁	六—六
○衛生の点で日本人にはどんな欠点があ るか。	頁	六—七
○心のけんこうのためにはどんな設備が 必要か。	頁	六—七
○町のいろいろな公共の設備はだれが作 るか、又どのような方法で作られるか。	頁	六—七
○役場にはどんなかかりがあるか。	頁	六—七
○お互に相談する会をうまく進めるには どうすればよいか。	頁	六—七
○まどガラスをこわさないようにするに はどうしたらよいか。	頁	六—七
○学校や学級の生活を楽しくするにはど うしたらよいか。	頁	六—七
○会議はどんなふうに進めたらいいか。	頁	六—七
○役所はどんな働きをしているか。	頁	六—七
○町の議会はどんな役目を持ち、どんな 仕事をしているか。	頁	六—七
○地方自治体とは何か。	頁	六—七
○町の議会と役所とはどんなかんけいが あるか。	頁	六—七
○学校のいろいろな費用はどうしてきめ られ、どのように送られてくるか。	頁	六—七
○自分たちの町をよくするにはどうした らよいか。	頁	六—七
○町の役場はどんな仕事をしているか。	頁	六—七
○公務員として必要なことはどんなことか。	頁	六—七
○民主的な世の中のしくみとはどういう か。	頁	六—七

片側通行	114
火災	45
汚水処分所	63
(九)	
(オ)(ウ)	
遠足の目的	8
遠足の計画	5
遠足のプログラム	9
エネルギー	60
衛生室	16
衛生室	18
衛生室	19
衛生室	19
衛生室	20
衛生室	49
衛生室	63
映画	32
映画	69
(エ)	
(ウ)	
医学	47
医学	53
医学	55
(イ)	
(ア)	

救急箱	19
救急車	50
気管支炎	42
議場	130
議場	131
議場	7
議場	97
議場	103
議場	108
議場	110
議場	112
議場	138
議員	108
議員	112
議員	132
(キ)	
官吏	118
かべ新聞	22
かべ新聞	24
かべ新聞	30
かべ新聞	67
学校沿革誌	21
学校	22
学校	25
学校	27
学校	28
学校	29
学校	31
学校	32
かくり病室	43
学級文庫	22

けんこう	52
けんこう	15
けんこう	55
けんこう	16
けんこう	66
けんこう	67
下水	63
下水	48
下水	67
外科	51
核	42
核	120
核	128
けいさつしょ	120
けいさつ官	119
けいさつ	120
けいさつ	121
けいさつ	124
けいさつ	125
けいさつ	126
けいさつ	127
けいさつ	128
経済がかり	125
(ケ)	
(ク)	
記録がかり	100
寄留届	83
競技場	58

ことか。	三〇―三三
○けいさつはどんなことをするとところか。	三四―三三
○新しいけいさつともとのけいさつはどんなところがちがうか。	三六―三三
○普通選挙とはどういうことか。	三六―三三
○選挙はどうして大切か。	三六―三三
○国会はどんな役目をもっているか。	三六―三三
○国会はどんなしくみをもっているか。	三六―三三

(二) ことばのさくいん (数字は頁数をあらわす)

治りょう	徴税令書	町議會議員	地方自治地震	地方自治租	(チ)	たい風	体育館	(タ)	速記者席	そうさばかり	(ソ)	選挙区	選挙	セキリ	税務しょ
46	115	100	45	107	111	76	24	107	111	125	64	131	131	43	111
47								111				132	132		
												133	133		

内科	(ナ)	土木課	図書室	図書館	同化作用	討論会	(ト)	伝染病院	伝染病	てんらん会	電器ろうじ器	D・D・T	定例会	(テ)	陽チフス	陽炎
51		114	32	68	62	99	43	43	43	12	29	65	108	43	42	
			33	116				43	66	49						
			34													
			35													
			36													

バラチフス	犯罪	話しあい	発見	発見	バスツール	派出所	博覧館	肺炎給	配給	(ハ)	(ノ)	年代表	(ネ)	(ヌ)	乳幼児	日本ノウエン	内閣
43	127	6	19	28	53	122	68	41	117	53		53			54	43	136
			28														

コレラ	戸籍簿	戸籍がかり	国民	国家地方けいさつ	国会議事堂	国会議員	国会議員	公務員	交通事故	交通がかり	呼吸作用	公園	(コ)	憲法	県庁
43	115	114	28	129	129	105	117	45	125	62	23	58	61	123	110
						133								134	
						134									

しょうどく	水道	条約	常会	巡査	出生届	衆議院議員	衆議院	社議院	自治体けいさつ	司会	(シ)	参議院	災害	裁判所
19	63	134	129	125	114	129	135	74	5	37	135	45	136	136
			133				136							
									126					

青年	政党	清潔	税金	(セ)	水洗式の便所	スポーツセンター	(ス)	じんどう炎	新聞記者	身体けんさ	ショウコウ熱	ジフテリア	しょう長	消防自動車	消防しょ	少年がかり
54	130	48	81		67	1	42	130	17	19	43	43	120	82	50	125
		64	115										121			
			117													
					58											
					59											

ハッ シン チフ ス	43	保 け ん の た め の 施 設	37 38	(ラ)
美 術 館	68	保 け ん 所	14 15 20 41 43 50 53 66 116	(リ)
病 院	17 20 43 50 52 54	町 の 費 用	80 81 82	緑 地 運 動 地 帯
(フ)		(マ)		47 60 62
婦 人 け い さ つ 官	105	無 医 村	50	臨 時 会
普 通 選 挙		(ム)		108 109
風 水 害	44	(ミ)		流 行 性 ノ ウ セ キ ズ イ マ ク エ ン
糞 尿	63	(メ)		43
分 布 図	68	(モ)		レ ク リ エ ー シ ョ ン
(ハ)		(ヤ)		(ロ)
ベ ス ト	43	役 所	66 105 108 117	33 48 67 69 71
(ホ)		薬 草 園	27 31	六 ・ 三 制
報 告 会	12	(ユ)	77 78 79 80 82 102 103 113 114 116	134
法 律	134	(ヨ)		
傍 聴 席	130	予 算	134	
防 犯 か り	125	予 防	20 46 47 49 53	
保 け ん	15 39	予 防 注 射	19	

先生方と御両親のために

この本は文部省学習指導要領社会科へん(1)とその補説に準拠して、前半は「保健とレクリエーション」後半は「政治」を主題として、この学年の児童の生活に適合した材料をもって記述されている。教科書の性質上、生活環境は中小都市の児童を想定しているが、二つの主題を「協力する社会」という一つの構想の中に統合し、児童の身近から起こってきた問題を解決して行く方法は、あらゆる環境での応用が可能であろう。社会科が単に書かれていることを教えるのではない以上、そこに盛られている工夫をかける意味でもれなく活用されることが望ましい。

- (1) 健康でないことは個人にとっても社会にとっても大きな不幸であること。
- (2) 健康な体と共に健康な心が必要であり、そのために健全な方法が考えられるべきこと。
- (3) 健康をよりよく進めるためにはさまざまな施設と方法が必要なこと。
- (4) レクリエーションの施設や方法は時と所によって異なっていること。
- (5) 世の中が複雑になればレクリエーションの施設や方法を工夫する必要があること。
- (6) 日本人はもっと公衆衛生を守るようにしなければならないこと。
- (7) 発明や発見は人間の生活の改善にさまざまな寄与をしたこと。
- (8) 予防医学の発達は人間の生命をのばしたこと。
- (9) われわれは生活を合理化し余暇を十分利用するよう努力すべきこと。

- (10) すべての人々の幸福をはかることは発明発見のもっともよい利用の仕方であること。  
 (11) 安全を維持し人々の幸福を保証するために社会にはさまざまな制度と施設のあること。  
 (12) さまざまな行政単位ではすべての人々の幸福のために政治を行っていること。  
 (13) 人間の社会生活には自主的な統制が必要なこと。  
 (14) 自分たちで相談し考え工夫することによってわれわれはその生活を明かるといふ幸福なものにして行けること。  
 (15) 議員は住民が自分達の代表として選出したものであること。  
 (16) 選挙はわれわれの重要な権利であり義務であること。  
 (17) 人々は生命や財産資源などを保護するために発明発見を利用すること。  
 (18) すべての人々の幸福をはかることを発明発見の最もよい利用の仕方であること。  
 (19) 社会が進歩するに従って政治の仕方は民主的になること。  
 (20) 自分の属している社会に対する責任と協力が明かるといふ社会への道を開くこと。  
 これらは互に重複しているものを省略してあるので、利用の際は一応前後に目を通していただきたい。  
 この本が、ある時は指導の手がかりに、ある時は学習方法の示唆に、又ある時は資料的な参考を提供しようとして  
 いることはいうまでもないが、その最も特長的なことは巻末に附けた問題索引である。それは社会科が実施され  
 て以来いわれた教科書の用い方についての具体的な方法の一つを示したものである。われわれは児童が捉える  
 小さな問題が、十分にねられたねらいをもっている主題の大きな流れに、どのような角度でとり入れられているか  
 をもそこ示したいと考えた。利用者の実際的な協力によって、本書はよりよく生かされるであらう。

編修委員

東京家政大学学長 青木誠四郎  
 東京都桜田小学校 室井光義  
 同 片岡龍一  
 東京学芸大学追分 松村謙  
 付属小学校教諭  
 東京学芸大学大泉 染田屋謙相  
 付属小学校教諭  
 東京都大泉高等学校 森田康之助  
 東京学芸大学竹早 野口竹夫  
 付属小学校教諭

さし絵・表紙

高岡三郎 西村保史郎  
 高野春人 箱崎正秋  
 松井末雄 土村正寿  
 大野五郎 竹原聖千

協力する社会 (小学校社会科第五学年後期用)

昭和二十六年五月十日印刷  
 昭和二十六年五月十五日発行  
 (昭和二十五年八月十二日文部省検定済)

定価 円 銭

著作者 代表者 青木誠四郎

発行者 東京都北区稻付町一丁目一〇八番地

代表者 二葉株式会社

印刷者 東京都北区稻付町一丁目一〇八番地

代表者 二葉株式会社

代表者 大野治輔

発行所 東京都北区稻付町一丁目二〇八番地  
 二葉株式会社

小社 511  
 12 二葉





広島大学図書

0130449983

広島大学図書

0130449983



0  
83